

科目区分	現代の教養系列／教養系列						
科目名	音楽鑑賞						
担当教員	緋田 芳江					科目ナンバ-	Z51050
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	火曜4	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	音楽を鑑賞する						
授業の概要	クラシック音楽は過去の文化遺産であると同時に、常に現在の実演を通して成立する表現芸術です。この授業では主にクラシック音楽について、鑑賞の助けとなる基本的な事項を学びつつ、優れた映像・録音を鑑賞し、感動や共感を通して理解を深め、芸術への知見を広めます。授業外においても自ら選んだコンサート・公演に足を運ぶことにより、主体的な鑑賞態度を身につけます。						
到達目標	(1) 音楽についての基礎知識を持ち、その価値を理解できる。【知識・理解】 (2) 音楽を鑑賞する基本的能力を持つことができる。【汎用的技能】 (3) 音楽に関心を持ち、積極的に鑑賞する姿勢を身につけることができる。【態度・志向性】						
授業計画	1. 授業の概要、基本事項の説明 2. リズム・メロディ・ハーモニー 3. 様々な楽器の響き 4. 中世・ルネサンスの音楽 5. 古楽器の響き 6. バッハとヘンデル 7. モーツァルト 8. ベートーヴェン 9. ロマン派の音楽 10. 近代・現代音楽 11. オペラ 12. バレエ 13. 教会音楽 14. 日本の古典芸能 15. まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	予習：指定した音楽を聴いたり資料を読むなどし授業に備える<1.5時間> 復習：授業で鑑賞した作品についてさらに学び、関連作品などを鑑賞する<2.5時間> * 授業外に最低1回、学外の任意のコンサート・公演を鑑賞してレポートを作成する。						
授業方法	講義と鑑賞。鑑賞前後に様々な方法で作品にアプローチし、主体的な鑑賞を促す。鑑賞の感想を言語化する。						
評価基準と評価方法	授業内の提出物60% レポート40%						
履修上の注意	授業態度：鑑賞中の静粛を守る。 学外の任意のコンサート・公演の鑑賞とレポート提出を必須とする。（チケット代の出費を伴う） 授業回数の3分の1以上を欠席した者は原則として単位認定を行わない。						
教科書	プリントを配布する						
参考書	「ごまかさないクラシック音楽」 新潮選書 ISBN978-4-10-603896-9						

科目区分	現代の教養系列／教養系列						
科目名	海外インターンシップ／海外インターンシップA						
担当教員	単位認定者：古川 典代					科目ナンバ-	Z21110
学期	集中講義	曜日・時限	集中1	配当学年	1～2	単位数	1.0
授業のテーマ	国外で将来のキャリアに関連した就業体験を行い、グローバルなビジネスの実態を知ることにより社会で働くことの意義を考える						
授業の概要	実習先国の歴史や文化、産業や経済情勢などを学びながら日本との違いを理解していく。海外における就業の実態や職場のルール、マナーを学び、実際に企業やその他の組織で体験実習（インターンシップ）を行なう。事前学習では実習先国の歴史的・文化的背景についての講義、語学学習、海外における危機管理、ビジネスマナーについてなど、海外インターンシップに必要な知識を身に付ける。これらの経験を通して、日本における企業体験とは異なる点などを認識し、グローバルビジネスの基礎的な経験を将来のキャリア形成のための一歩として位置付けることを目的とする。						
到達目標	①インターンシップを通じて、自分に適した職業は何か、将来の自己のキャリア形成を考えることができる。【知識・理解】 ②異文化理解を深め、コミュニケーション能力を養うことができる。【汎用的技能】 ③グローバル社会で働くことの意義とその働き方について考えることができる。【知識・理解】 ④社会人基礎力の必要性を考えることができる。【態度・志向性】						
授業計画	<p>【事前学習】</p> <p>第1回 オリエンテーション・実習先国の事業内容の確認 第2回 海外と日本のビジネススタイルの違いについて学ぶ 第3回 実習に必要な言語を学ぶ 第4回 異文化におけるコミュニケーションについて学ぶ 第5回 海外における危機管理について意識を高める。</p> <p>【長期休暇期間中実習】→現地での活動</p> <p>第6回 現地説明 第7回 フィールドワーク1 第8回 フィールドワーク2 第9回 フィールドワーク3 第10回 フィールドワーク4 第11回 フィールドワーク5 第12回 フィールドワーク6 第13回 現地報告会：プレゼンテーション</p> <p>【事後学習】</p> <p>第14回 現地活動のふりかえり、前回のプレゼンテーションのフィードバック 第15回 実習報告：最終プレゼンテーション</p>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	事前学習：①ピア学習室等での実習先国言語の自主学習 ②ウェブサイト、新聞、ガイドブックなどで実習先国についての情報を集め、実習先国の知識を得る 事後学習：現地での活動を報告書にまとめ、最終プレゼンテーションの準備を行う 事前・事後学習＜5時間＞+現地でのフィールドワーク・実習活動＜40時間＞=合計＜45時間＞						
授業方法	集中講義（事前学習、海外での実習、事後学習） フィールドワーク、プレゼンテーションを含む  【実務経験のある教員等による授業】 現地企業・組織等において、現地スタッフの指導のもと、就業体験を行う。						
評価基準と評価方法	実習態度、実習先での評価などの総合評価（60%） 事前・事後レポート（20%）、発表（20%）						
履修上の注意	①事前・事後学習に必ず参加すること。 ②参加申込書、誓約書を提出すること。 ③申込み、参加に際し、保証人の同意を得られること。 ④心身共に、健康上の問題のないこと。 ⑤実習中は実習先の指導に従うこと。 ⑥実習に伴う交通費などは自己負担する。						
教科書	プリント配布						
参考書	随時紹介する。						

科目区分	現代の教養系列／教養系列						
科目名	海外インターンシップ／海外インターンシップA						
担当教員	単位認定者：古川 典代					科目ナンバ-	Z21110
学期	集中講義	曜日・時限	集中1	配当学年	1～2	単位数	1.0
授業のテーマ	国外で将来のキャリアに関連した就業体験を行い、グローバルなビジネスの実態を知ることにより社会で働くことの意義を考える						
授業の概要	実習先国の歴史や文化、産業や経済情勢などを学びながら日本との違いを理解していく。海外における就業の実態や職場のルール、マナーを学び、実際に企業やその他の組織で体験実習（インターンシップ）を行なう。事前学習では実習先国の歴史的・文化的背景についての講義、語学学習、海外における危機管理、ビジネスマナーについてなど、海外インターンシップに必要な知識を身に付ける。これらの経験を通して、日本における企業体験とは異なる点などを認識し、グローバルビジネスの基礎的な経験を将来のキャリア形成のための一歩として位置付けることを目的とする。						
到達目標	①インターンシップを通じて、自分に適した職業は何か、将来の自己のキャリア形成を考えることができる。【知識・理解】 ②異文化理解を深め、コミュニケーション能力を養うことができる。【汎用的技能】 ③グローバル社会で働くことの意義とその働き方について考えることができる。【知識・理解】 ④社会人基礎力の必要性を考えることができる。【態度・志向性】						
授業計画	<p>【事前学習】</p> <p>第1回 オリエンテーション・実習先国の事業内容の確認 第2回 海外と日本のビジネススタイルの違いについて学ぶ 第3回 実習に必要な言語を学ぶ 第4回 異文化におけるコミュニケーションについて学ぶ 第5回 海外における危機管理について意識を高める。</p> <p>【長期休暇期間中実習】→現地での活動</p> <p>第6回 現地説明 第7回 フィールドワーク1 第8回 フィールドワーク2 第9回 フィールドワーク3 第10回 フィールドワーク4 第11回 フィールドワーク5 第12回 フィールドワーク6 第13回 現地報告会：プレゼンテーション</p> <p>【事後学習】</p> <p>第14回 現地活動のふりかえり、前回のプレゼンテーションのフィードバック 第15回 実習報告：最終プレゼンテーション</p>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	事前学習：①ピア学習室等での実習先国言語の自主学習 ②ウェブサイト、新聞、ガイドブックなどで実習先国についての情報を集め、実習先国の知識を得る 事後学習：現地での活動を報告書にまとめ、最終プレゼンテーションの準備を行う 事前・事後学習<5時間>+現地でのフィールドワーク・実習活動<40時間>=合計<45時間>						
授業方法	集中講義（事前学習、海外での実習、事後学習） フィールドワーク、プレゼンテーションを含む  【実務経験のある教員等による授業】 現地企業・組織等において、現地スタッフの指導のもと、就業体験を行う。						
評価基準と評価方法	実習態度、実習先での評価などの総合評価（60%） 事前・事後レポート（20%）、発表（20%）						
履修上の注意	①事前・事後学習に必ず参加すること。 ②参加申込書、誓約書を提出すること。 ③申込み、参加に際し、保証人の同意を得られること。 ④心身共に、健康上の問題のないこと。 ⑤実習中は実習先の指導に従うこと。 ⑥実習に伴う交通費などは自己負担する。						
教科書	プリント配布						
参考書	随時紹介する。						

科目区分	現代の教養系列／教養系列						
科目名	感情・人格心理学						
担当教員	山本 竜也					科目ナンバ-	P12050
学期	前期／1st semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	2～3	単位数	2.0
授業のテーマ	心理学の観点から、感情および人格（パーソナリティ）の主要な理論と日常生活における役割について学ぶ。						
授業の概要	ある状況における感情は人それぞれであり、その背後には人格（パーソナリティ）という個人を特徴づけるものがあると考えられている。これらは私たちが日常生活を送るうえで切り離せないものであり、対人関係にも影響を与える。「感情・人格心理学」では、感情や人格（パーソナリティ）について、具体的現象を交えながら学ぶ。						
到達目標	1. 感情に関する理論及び感情喚起の機序、維持、強度と、感情が行動に及ぼす影響について説明できる。【知識・理解】 2. 人格の概念及び形成過程や人格の類型、特性等について説明できる。【知識・理解】 3. 感情や人格（パーソナリティ）のアセスメント方法を説明できる。【知識・理解】						
授業計画	第1回：オリエンテーション（授業概要と単位認定の説明） 第2回：感情の定義と主要な理論 第3回：感情の喚起、維持、強度 第4回：日常生活における感情の役割 第5回：ポジティブ感情の効果 第6回：ネガティブ感情の効果 第7回：感情調整の不全 第8回：感情のアセスメント方法 第9回：人格（パーソナリティ）の定義と主要な理論（人格の類型と特性等） 第10回：人格（パーソナリティ）の形成における生物学的要因 第11回：人格（パーソナリティ）の形成における社会・心理的要因 第12回：人格（パーソナリティ）の障害 第13回：人格（パーソナリティ）のアセスメント方法 第14回：感情・人格（パーソナリティ）の観点からよりよい生き方を考える 第15回：授業のまとめと試験						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前に授業資料を読み込むとともに、関連する文献を調べる。〈1時間〉 授業後は内容の理解を深め、日常生活における知識や理論の応用について考える。〈3時間〉						
授業方法	原則的に講義であるが、適宜演習を取り入れるため積極的に参加すること。演習内容について回答を求めることがある。なお、各回でコメントシートの提出を求め、次の授業開始時に質問などに回答する。						
評価基準と評価方法	15回の授業のうち10回以上の出席を単位認定の要件とする。ただし、遅刻は2回で1回の欠席とみなす。平常点50%、期末試験50%の割合で評価を行う。 平常点：授業態度、コメントシートの記述内容、適宜指示する課題への取り組み（到達目標1～3の確認） 期末試験：授業内容に基づき感情・人格心理学の知識と理解を問う（到達目標1～3の確認）						
履修上の注意	授業への積極的な参加を望む。他の履修者の迷惑になるような私語、授業と関係がないことなど、授業を円滑に運営するうえで妨げになるようなことはしないこと。遅刻、欠席はしないこと。 公認心理師の受験資格取得のために、単位を修得する必要がある科目である。心理学科以外の学科の学生が履修する場合、履修を中止することはできないため、十分に検討したうえで履修登録を行うこと。 修学上何らかの合理的配慮が必要な場合は所定の手続きを行うとともに、担当教員に当該授業における具体的な配慮内容について事前に合意できるように努めること。						
教科書	指定しない。						
参考書	中間玲子（編） 『感情・人格心理学』（ミネルヴァ書房、ISBN 9784623087105）						

科目区分	現代の教養系列／教養系列						
科目名	学習・言語心理学A						
担当教員	安原 秀和					科目ナンバ-	P1203A
学期	前期／1st semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	学習と言語についての心のしくみ						
授業の概要	学習とは動物が行動を変化させていく過程のことです。 言語とはヒトが音声や文字を用いて自身の意思や感情を伝える手段のことです。 講義ではこれら学習と言語を可能にする心のしくみを基本から解説します。						
到達目標	1. 人の行動が変化する過程を理解することができる【知識・理解】 2. 言語の習得における機序を理解することができる【知識・理解】 3. 日常の様々な場面を理論と照らし合わせて考えられるようになる【知識・理解】						
授業計画	1. ガイダンス 2. 視覚と学習 3. 聴覚、体性感覚と学習 4. 認知心理学について 5. 条件づけ 6. 技能学習 7. 記憶の機序 8. 2講目から7講目までの授業内容についての復習・質疑応答と試験 9. 学習と記憶の関わり 10. 思考 11. 知識と概念 12. 象徴・記号としての言語 13. 非言語的コミュニケーションと言語的コミュニケーション 14. 失語症 15. 総復習						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	教科書をしっかり読みましょう。 授業前学習：授業で扱うトピックについての予習(2時間) 授業後学習：授業で扱ったトピックについての復習(2時間)						
授業方法	講義と小テスト 授業中の小テストについては、教科書や配付資料を見ながら解くことができます。						
評価基準と評価方法	出席と小テスト(20%) 到達目標1から3に関する到達度の確認 中間テスト(30%) 到達目標1から3に関する到達度の確認 期末テスト(50%) 到達目標1から3に関する到達度の確認 中間テストは8講目、期末テストは15講目に実施しない。 期末テストは学期末に実施、両方とも持ち込みは不可						
履修上の注意	5回の欠席で、受講資格を失いません。欠席回数は自分で把握しましょう。 補講時間や場所の告知、テストの出題でmanabaを利用します。 manabaをこまめにチェックしましょう。						
教科書	『心理学 第5版補訂版』 鹿取 廣人, 杉本 敏夫, 鳥居 修晃 東京大学出版会 978-4-13-012117-0						
参考書							

科目区分	現代の教養系列／教養系列						
科目名	近代文学講読						
担当教員	白井 耕平					科目ナンバ-	J72220
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	直木賞作家を読むこと						
授業の概要	日本近代文学のあり方を考える作業の一環として、五木寛之「蒼ざめた馬を見よ」と野坂昭如「骨餓身峠死人葛」の2作品をとりあげる。それぞれの作品の時代背景、成立、構成を調査した上で、その作家像、影響関係を精査し、必要に応じて、関連する他の作品をも読解する。						
到達目標	近代以降の諸作家、諸作品、文学思潮、もしくは文学理論等について、最新の情報、最新の研究成果を享受した上で、その文化的意味、現代的な意義を理解し、次世代へ継承する幅広い知識と表現力を身につけることができる。【知識・理解】						
授業計画	第1回 ガイダンス 第2回 作家五木寛之に関する紹介 第3回 五木寛之の作品について 第4回 五木寛之「蒼ざめた馬を見よ」講読 導入 第5回 五木寛之「蒼ざめた馬を見よ」講読 応用 第6回 五木寛之「蒼ざめた馬を見よ」講読 発展 第7回 五木寛之「蒼ざめた馬を見よ」講読 展開 第8回 五木寛之「蒼ざめた馬を見よ」講読 まとめ 第9回 作家野坂昭如に関する紹介 第10回 野坂昭如「骨餓身峠死人葛」講読 導入 第11回 野坂昭如「骨餓身峠死人葛」講読 応用 第12回 野坂昭如「骨餓身峠死人葛」講読 発展 第13回 野坂昭如「骨餓身峠死人葛」講読 展開 第14回 2作品のまとめと筆記試験 第15回 総まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	戦後を中心とした近現代日本の文化と歴史について学習しておくこととともに、授業中に提示した本文テキストを、あらかじめ精読すること。自宅、図書館等での勉学に90時間程度は必要であろう。						
授業方法	あらかじめ精読してきた本文の読みを各自が提示して、その読みが的確であるかどうかを相互に確認する作業を継続していく講読形式。必要に応じてmanabaを活用する。コースニュースで必要事項を適宜、伝達し、掲示板へ書き込みをしてもらうことにする。						
評価基準と評価方法	到達目標としている「文化史的意味、現代的な意義を理解し、次世代へ継承する幅広い知識と表現力を身につけることができる」を評価するために筆記試験を実施する。その過程をも重視し、日常的な授業に対する取組状況に関しては、各回提出のリアクションペーパーを用いて評価する。その割合は日常的な授業に対する取組状況50%、筆記試験50%とする。						
履修上の注意	積極的な授業参加が必要						
教科書	五木寛之『蒼ざめた馬を見よ』（文春文庫、2006年） ISBN 978-4167100339 野坂昭如『骨餓身峠死人葛』（岩波現代文庫、2008年） ISBN 978-4006021177						
参考書	授業中に適宜指示						

科目区分	現代の教養系列／教養系列						
科目名	近代文学史						
担当教員	梶尾 文武					科目ナンバ-	J72140
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	金曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	「文学史」の視点から見る「作品」						
授業の概要	明治・大正・昭和期の文学作品を文学史の観点から読み解きます。文学作品を個々別々のものとして捉えるのではなく、さまざまな連鎖の中で有機的に読み解く作業をなします。作品の細部から立ち上がる文学史の全体像を捉えることが最終目標です。						
到達目標	明治・大正・昭和期の文学を時流に沿いながら深く理解し、その文学史的意味、現代的な意義を享受することができる。【知識・理解】						
授業計画	第1回 ガイダンス 第2回 明治期の文学① 第3回 明治期の文学② 第4回 明治期の文学③ 第5回 大正期の文学① 第6回 大正期の文学② 第7回 昭和期の文学① 第8回 昭和期の文学② 第9回 昭和期の文学③ 第10回 昭和期の文学④ 第11回 昭和期の文学⑤ 第12回 昭和期の文学⑥ 第13回 現代の文学① 第14回 現代の文学② 第15回 まとめと筆記試験 * 各回の授業内容は進度に応じて変更となる場合がある。						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	近代日本の文化と歴史について学習し、授業中に指示した本文テキストを精読しておいてください。関連する作品を数多く読む必要があるため、80時間程度の授業外における学習時間の確保が望まれます。						
授業方法	講義形式。必要に応じて各自の読解を相互に確認する作業を行いません。適宜、松蔭manabaの「コースニュース」を使用します。						
評価基準と評価方法	到達目標への達成度を評価するため、筆記試験を実施します。また学習の過程をも重視し、日常的な授業に対する取り組み状況も評価に含めます。割合は、筆記試験50%、日常的な授業に対する取り組み状況50%とします。						
履修上の注意	積極的な授業参加が必要です。						
教科書	安藤宏『日本近代小説史』中公選書、2020年 ISBN: 978-4121101105						
参考書	授業中に適宜指示します。						

科目区分	現代の教養系列／教養系列						
科目名	近代文学の基礎						
担当教員	竹永 知弘					科目ナンバ-	J72210
学期	前期／1st semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	1960年代～1990年代に発表された現代文学を読解する。						
授業の概要	日本近現代文学のあり方を考える作業の一環として、いくつかの小説作品をとりあげて検討を行なう。それぞれの作品の時代背景、成立、構成を調査した上で、その作家像、影響関係を精査しながら、必要に応じて関連する他の作品も読解する。						
到達目標	近現代文学の諸作家、諸作品、文学史、文学理論などについて、最新の情報や研究成果を踏まえた上で、その文化的意味、現代的な意義を理解し、それらについての幅広い知識と表現力を身につける。【知識・理解】						
授業計画	第1回 ガイダンス 第2回 倉橋由美子 『パルタイ』① 第3回 倉橋由美子 『パルタイ』② 第4回 倉橋由美子 『パルタイ』③ 第5回 金井美恵子 『岸辺のない海』① 第6回 金井美恵子 『岸辺のない海』② 第7回 金井美恵子 『岸辺のない海』③ 第8回 金井美恵子 『岸辺のない海』④ 第9回 松浦理英子 『ナチュラル・ウーマン』① 第10回 松浦理英子 『ナチュラル・ウーマン』② 第11回 松浦理英子 『ナチュラル・ウーマン』③ 第12回 多和田葉子 『三人関係』 『アルファベットの傷口』① 第13回 多和田葉子 『三人関係』 『アルファベットの傷口』② 第14回 多和田葉子 『三人関係』 『アルファベットの傷口』③ 第15回 まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業中に提示した本文テキストを、あらかじめ精読する。自宅、図書館などでの80時間程度の学習を想定している。						
授業方法	講義形式を基本としてつつ、適宜、講読・演習的な方法も用いる。必要に応じて、各自があらかじめ用意してきた読解を授業時間内で提示し、その読解の有効性を受講生間で相互に確認する作業を実施する。必要に応じてmanabaを活用する。						
評価基準と評価方法	到達目標としている「文化的意味、現代的な意義を理解し、次世代へ継承する幅広い知識と表現力を身につけることができる」を評価するために筆記試験を実施する。その過程を把握するために日常的な授業に対する取組状況を注視することとする。その割合は日常的な授業に対する取組状況50%、期末レポート50%とする。						
履修上の注意	積極的な授業参加を求める。出席回数が授業回数の2/3に満たないものは単位認定を行わない。						
教科書	必要に応じて、プリントを配布する。						
参考書	金井美恵子 『岸辺のない海』（河出文庫、2009年）ISBN：430940975X 松浦理英子 『ナチュラル・ウーマン』（河出文庫、2010年）ISBN：4309408478 多和田葉子 『かかとを失くして 三人関係 文字移植』（講談社文芸文庫、2014年）ISBN：4062902273 その他の参考書は、必要に応じて、授業中に紹介する。						

科目区分	現代の教養系列／教養系列						
科目名	くらしと憲法						
担当教員	吉川 正史					科目ナンバ-	Z11230
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	木曜4	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	目に見えないところで私たちのくらしにかかわっている日本国憲法について深く理解する。						
授業の概要	法体系における憲法の位置づけを確認し、法の意義・分類・解釈について概観したうえで、日本国憲法の内容について詳細に講義する。そこでは、人権保障および民主政治のしくみについて、それぞれ具体的事例も取り上げながら、わかりやすく解説することとする。						
到達目標	1. 日本国憲法における人権保障について理解し説明できる。【知識・理解】 2. 日本国憲法における民主政治のしくみについて理解し説明できる。【知識・理解】						
授業計画	第1回 イントロダクション～憲法とは何か 第2回 法の意義・分類・解釈 第3回 人権保障(1)子どもの人権・外国人の権利 第4回 人権保障(2)プライバシー権・自己決定権 第5回 人権保障(3)法の下での平等 第6回 人権保障(4)表現の自由 第7回 人権保障(5)信教の自由・営業の自由 第8回 人権保障(6)生存権・教育権 第9回 人権保障(7)死刑制度 第10回 民主政治のしくみ(1)天皇・平和主義 第11回 民主政治のしくみ(2)国会 第12回 民主政治のしくみ(3)内閣 第13回 民主政治のしくみ(4)裁判所・司法審査制 第14回 民主政治のしくみ(5)地方自治・憲法改正 第15回 日本国憲法総括						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	授業前学習：教科書または事前配布プリントの該当箇所を予習し、要点を整理しておく。(学習時間：<2時間>) 授業後学習：授業内容の要点をノートにまとめたうえで、小テスト(確認テスト)で理解度を確かめる。(学習時間：<2時間>)						
授業方法	講義： manabaを利用した小テスト(確認テスト)および期末レポートを実施する。						
評価基準と評価方法	小テスト(確認テスト)50% 期末レポート50%						
履修上の注意	事前配布プリントがあるときは、manabaにより配信する。 小テスト(確認テスト)および期末レポートは、提出期限を厳守すること。						
教科書	『いちばんやさしい憲法入門〔第6版〕』初宿正典・高橋正俊・米沢広一・棟居快行著 有斐閣 ISBN978-4-641-22150-5						
参考書							

科目区分	現代の教養系列／教養系列						
科目名	くらしと憲法						
担当教員	吉川 正史					科目ナンバー	Z11230
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	木曜5	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	目に見えないところで私たちのくらしにかかわっている日本国憲法について深く理解する。						
授業の概要	法体系における憲法の位置づけを確認し、法の意義・分類・解釈について概観したうえで、日本国憲法の内容について詳細に講義する。そこでは、人権保障および民主政治のしくみについて、それぞれ具体的事例も取り上げながら、わかりやすく解説することとする。						
到達目標	1. 日本国憲法における人権保障について理解し説明できる。【知識・理解】 2. 日本国憲法における民主政治のしくみについて理解し説明できる。【知識・理解】						
授業計画	第1回 インTRODクシヨン～憲法とは何か 第2回 法の意義・分類・解釈 第3回 人権保障(1)子どもの人権・外国人の権利 第4回 人権保障(2)プライバシー権・自己決定権 第5回 人権保障(3)法の下での平等 第6回 人権保障(4)表現の自由 第7回 人権保障(5)信教の自由・営業の自由 第8回 人権保障(6)生存権・教育権 第9回 人権保障(7)死刑制度 第10回 民主政治のしくみ(1)天皇・平和主義 第11回 民主政治のしくみ(2)国会 第12回 民主政治のしくみ(3)内閣 第13回 民主政治のしくみ(4)裁判所・司法審査制 第14回 民主政治のしくみ(5)地方自治・憲法改正 第15回 日本国憲法総括						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	授業前学習：教科書または事前配布プリントの該当箇所を予習し、要点を整理しておく。(学習時間：<2時間>) 授業後学習：授業内容の要点をノートにまとめたうえで、小テスト(確認テスト)で理解度を確かめる。(学習時間：<2時間>)						
授業方法	講義： manabaを利用した小テスト(確認テスト)および期末レポートを実施する。						
評価基準と評価方法	小テスト(確認テスト)50% 期末レポート50%						
履修上の注意	事前配布プリントがあるときは、manabaにより配信する。 小テスト(確認テスト)および期末レポートは、提出期限を厳守すること。						
教科書	『いちばんやさしい憲法入門〔第6版〕』初宿正典・高橋正俊・米沢広一・棟居快行著 有斐閣 ISBN978-4-641-22150-5						
参考書							

科目区分	現代の教養系列／教養系列						
科目名	経済学						
担当教員	奥西 達也					科目ナンバ-	251170
学期	前期／1st semester	曜日・時限	月曜4	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	「経済学的な考え方」を学ぶ						
授業の概要	経済学とはどのような学問かを考えることを導入部に、「経済学的な考え方」について、また経済のしくみ(メカニズム)について、できるだけ平明に講義します。そして現代社会におけるさまざまな経済事象や経済問題を考察する際、経済学の基本的な「概念装置」「理論装置」を通してその本質の理解に一步近づければと考えています。ネットやTV、新聞などの経済記事などで話題になっている経済トピックについて取り上げ、「経済学的な考え方」にもとづいて分かりやすく説明する予定です。						
到達目標	(1)経済を分析・総合する上で必要な、経済学の基本的な概念や理論装置が理解できる。【知識・理解】 (2)学んだ経済学的知見を通して、経済に関わる具体的な事象や問題をより深く理解できる。【知識・理解】 (3)ネットや新聞の記事に見られるトピカルな経済事象や問題を経済学的な思考枠組みで、これまでより深く読解し、内容を考察できる。【知識・読解】						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション、わたしたちにとって「経済」とは？</li> <li>2. 経済学的な見方・考え方：さまざまな経済学</li> <li>3. 簡単な経済学の歴史①：古典派経済学の現代性と限界</li> <li>4. 簡単な経済学の歴史②：古典派経済学批判～現代経済学</li> <li>5. 経済システムと組織①：市場のしくみ</li> <li>6. 経済システムと組織②：企業の役割・変化しつつある企業組織の現状</li> <li>7. マクロ経済学の基礎知識①：マクロ経済学とは何か／国民経済勘定について／経済成長率について</li> <li>8. マクロ経済学の基礎知識②：経済政策の必要性</li> <li>9. マクロ経済学の基礎知識③：財政政策と金融政策</li> <li>10. 開放経済のマクロ経済学</li> <li>11. ミクロ経済学の基礎知識①：ミクロ経済学とは何か／消費者の行動</li> <li>12. ミクロ経済学の基礎知識②：企業の経済行動</li> <li>13. ミクロ経済学の基礎知識③：価格と生産量の決定：市場</li> <li>14. ミクロ経済学の基礎知識④：市場メカニズムは効率的か？</li> <li>15. 経済のグローバル化とその功罪 およびまとめと試験</li> </ol>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：授業で提示されたトピックをWEB・参考文献を利用して調べ、指示された様式にまとめる。＜2時間＞ 授業後学習：授業内容を復習し、確認テストに備える。＜2時間＞						
授業方法	極力双方向の講義を目指します。内容理解と知識の整理のために、できるだけ頻回に確認テストを実施する予定です。そのさいに、現在の経済にかかわる主要な問題や出来事についても出題する予定です。またその解説も平明に行うつもりです。						
評価基準と評価方法	期末試験70%：到達目標(1)(2)の到達度の評価 平常点30%(講義内容コメント提出・確認テスト)：到達目標(1)(3)の理解・読解の的確性評価						
履修上の注意	「現代社会と経済A」を履修済みかあるいは経済学に積極的関心のある者が履修することが望ましいです。なるべく理解度を確認しながら進むつもりなので講義スケジュールの順序・かける時間に多少の異同はあります。 2/3以上の出席に満たない者は期末試験の受験資格を失います。 授業マナーをしっかり守る〔私語・途中退出・遅刻は厳禁〕。提出物を求められたときは期日厳守。						
教科書	授業資料を基本的にはmanabaで配信。						
参考書	井堀利宏著『図解雑学マクロ経済学』（ナツメ社） 嶋村・横山著『図解雑学ミクロ経済学』（ナツメ社） 中原他著『日本経済の常識』（ナカニシヤ書店） 山田鋭夫著『レギュレーション理論』（講談社新書） J.スティグリッツ著『入門経済学』（東洋経済新報社） 中野剛志著『奇跡の経済教室 基本知識編』（ベストセラーズ）						

科目区分	現代の教養系列／教養系列						
科目名	現代社会と経済A／現代社会と経済						
担当教員	奥西 達也					科目ナンバ-	Z5118A
学期	前期／1st semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	日本経済の基本構造を理解する。						
授業の概要	社会生活において、また来るべき就職活動においても、経済に関わる知識を習得しておくことはとても重要です。授業では、日本経済を支えている企業のあり方や現状、生産活動のあり方、金融のしくみ、日本をとりまく国際経済情勢について、基本的なことから平明に解説をします。その際、できるだけ、日本経済に大きな関わりをもつと思われるトピックを新聞やネットから(ときには皆さんの関心の高いテーマから)題材としてピックアップし、説明したいと考えています。						
到達目標	(1)経済の基本的なしくみや制度、「戦後～現代」の主要国・地域の大まかな経済の推移が理解できる。【知識・理解】 (2)経済知識の学習を通して、経済に関わる具体的な事象や問題を理解できる。【知識・理解】 (3)トピカルな経済事象や問題を自らの経済生活と関連づけて認識し、ネットや新聞の経済記事をこれまでより身近により興味をもって、読み、考察できる。【知識・理解、態度・志向性】						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 経済とは何か？誰のための経済か？—「経世済民」を考える</li> <li>2 「市場」のはたらきを学ぶ①</li> <li>3 市場の種類とそのしくみ②</li> <li>4 市場の限界③</li> <li>5 「企業」の役割を学ぶ①</li> <li>6 株式会社の基本的なしくみ②</li> <li>7 コーポレート・ガバナンスとCSR③</li> <li>8 経済における政府の役割①：経済政策(財政政策・金融政策・その他経済安全保障に関わる政策)</li> <li>9 経済における政府の役割②：社会政策(労働政策・福祉政策など)</li> <li>10 「銀行」のしくみを学ぶ①(一部8との関わり)</li> <li>11 日本銀行の役割②</li> <li>12 「戦後～現代」の世界経済のトレンド①：覇権国を中心に</li> <li>13 「戦後～現代」の世界経済のトレンド②：日本、BRICSプラスを中心に</li> <li>14 為替レートの変動がもたらすもの</li> <li>15 まとめとテスト</li> </ol>						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	授業前学習：授業で提示されたトピックをWEB・参考文献を利用して調べ、指示された様式にまとめる。<2時間> 授業後学習：授業内容を復習し、チェックシート(確認テスト)に備える。<2時間>						
授業方法	極力双方向の講義をめざします。 理解の確認・知識の整理のためのチェックシートをなるべく頻回に行いたいと思います。						
評価基準と評価方法	期末試験70%：到達目標(1)(2)の到達度を評価 平常点30%：授業内容コメントの提出・チェックシートによる既習事項の理解の的確性を評価						
履修上の注意	授業マナーをしっかりと守る(私語・途中退室・遅刻は厳禁)。 積極的に授業に臨まれることを希望します。 2/3以上の出席に満たない者は期末試験の受験資格を失います。						
教科書	授業資料を基本的にはmanabaで配布します。						
参考書	中原他著『日本経済の常識』(ナカニシヤ出版) 中野剛志著『奇跡の経済教室 基本知識編』(ベストセラーズ)						

科目区分	現代の教養系列／教養系列						
科目名	現代社会と経済B						
担当教員	奥西 達也					科目ナンバ-	Z5118B
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	日本経済の「現在」と「これから」、世界経済の潮流について、「グローバル化」、「デジタルトランスフォーメーション(DX)」、「ダイバーシティ(多様性)」という観点から考察し理解を深める。						
授業の概要	日本経済社会に大きな関わりを持つと思われるトピックにかんする新聞やネット記事を題材として、日本の現状、グローバル化、デジタルトランスフォーメーション(DX)による経済の変化、経済のある「べき」かたちや可能性などについて解説をし、ときには共に考える。また受講生自身も経済記事を探して、自らの経済生活と関連づけて内容を理解し、ときには発表してもらうことで、経済記事を主体的に探して読みこなす態度を養う。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 経済知識の学習を通して、経済に関する具体的な事象や問題を理解できる。【知識・理解】</li> <li>2. 特定のテーマに関するネットや新聞の経済記事を探し、自らの経済生活と関連づけて読みこなすことができる。【汎用的技能】</li> <li>3. 自身の関心に沿って経済記事を探し、現代の経済状況や社会の変化を捉え、またデータや論理的な思考にもとづいてある「べき」経済のかたちや可能性を考察し表現できる。【態度・志向性】</li> </ol>						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション：ホモ・ファーベルとしての人間と経済</li> <li>2. 経済と技術：イノベーションとダイナミズム(経済活力と創造)</li> <li>3. 新自由主義とグローバル化1：市場と政府、自由競争と規制、コモン、格差</li> <li>4. 新自由主義とグローバル化2：株主資本主義あるいは金融指導型の経済成長</li> <li>5. さまざまな経済：資本主義の多様性(ダイバーシティ)/各国、各地域の経済のかたち</li> <li>6. ポスト・コロナの経済：失われた30年とは何だったのか</li> <li>7. ポスト・コロナの経済：デフレ脱却への道筋と「新しい資本主義」</li> <li>8. SDG'sとESG</li> <li>9. 地球環境と脱炭素</li> <li>10. 国際政治と日本経済：米中対立・ウクライナ戦争とサプライ・チェーン</li> <li>11. DXの進展と経済1：新しい働き方、働くこと意味の問い直し</li> <li>12. DXの進展と経済2：新しい企業経営</li> <li>13. DXの進展と経済3：新しい地域経済</li> <li>14. これからの産業、社会、文化(13とも関連)</li> <li>15. 簡単な総復習と期末試験</li> </ol>						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	<p>授業前学習：授業で提示されたトピックをWEB・参考文献を利用して調べ、指示された様式にまとめる。&lt;2時間&gt;</p> <p>授業後学習：授業内容を復習し、確認テストに備える。&lt;2時間&gt;</p>						
授業方法	<p>対面の講義形式。 極力双方向をめざす。 理解の確認・知識の整理のためのチェックシート(確認テスト)をなるべく頻回に行う。 授業中に与えられた課題を調査してmanabaに提出する。 ときに、授業中に各回テーマに関わる事象や問題について調査・考察を行い発表してもらう。 PCが必要である。</p>						
評価基準と評価方法	<p>期末試験70%：到達目標1の到達度を評価する。 平常点30%：授業内容コメントの提出とチェックシートにより既習事項の理解度を評価する。 課題提出により到達目標2の習熟度を確認する。 発表により到達目標2および3を確認し評価する。</p>						
履修上の注意	<p>授業マナーをしっかりと守る(私語・途中退室・遅刻は厳禁)。 原則2/3以上の出席に満たない者は期末試験の受験資格を失います。 積極的に授業に臨まれることを希望します。 各回PCを持参すること。</p>						
教科書	授業資料を基本的にはmanabaで配布します。						
参考書	<p>中原他著『日本経済の常識』(ナカニシヤ出版) 中野剛志著『奇跡の経済教室 基礎知識編』(ベストセラーズ) 授業時にも提示</p>						

科目区分	現代の教養系列／教養系列						
科目名	現代社会と政治						
担当教員	奥西 達也					科目ナンバ-	251190
学期	前期／1st semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	政治とは何かを考える。政治のしくみを学ぶ。トピカルな政治問題を理解する。						
授業の概要	授業では、現代の政治のしくみが歴史的にどう出来上ったのか、それはどのように機能しているのか、民主主義はどのようなメリット・デメリットをもっているのかを学びます。それをもとに現在起こっているトピカルな政治問題を読み解いたり、私たちの日常生活と政治との関わりの深さを具体例を挙げながら認識してもらいます。新聞やメディアで話題に上っている政治関連記事やみなさんが関心を抱いているトピック(アンケートでたずねます)についても時間が許す限りとりあげ検討していく予定です。						
到達目標	(1) 政治の基本的なしくみや制度、政治学上の初歩的な概念や主要な近代以降の政治思想が理解できる。【知識・理解】 (2) 政治(学)的な知識の学習を通して、政治に関わる具体的な事象や問題を理解できる。【知識・理解】 (3) トピカルな政治的事象や問題を自らの現実生活との関わりにおいて認識し、ネットや新聞の政治記事をこれまでより身近により興味をもって、読み、内容を考察できる。【知識・理解、態度・志向性】						
授業計画	1 はじめに：私たちと政治 2 政治とは何か：「政治」の両義性 3 古代～中世の共和制・民主制とその思想 4 マキャベッリと近代：リアリズム・シヴィックヒューマニズム 5 近代民主政治の思想と原理①：ホッブズ・ロックを中心に 6 近代民主政治の思想と原理②：ルソー・バークを中心に 7 保守・革新という考え(5、6との関連) 8 現代民主政治のしくみ①：議会制民主主義の諸類型 9 現代民主政治のしくみ②：日本型民主主義の特徴 10 民主主義のメリットとデメリット 11 国際政治と日本①：政治的イデオリズム(理想主義)と政治的リアリズム 12 国際政治と日本②：パワーゲーム・国家安全保障・日本の状況とその向かう先は？ 13 政治と国家：国家機能の変遷・現代社会における国家の役割・官僚制化と民主主義 14 民主主義とメディア：世論の支配・操作/民主主義再考(最高!?) 15 まとめと期末試験						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	授業前学習：授業で提示されたトピックをWEBや参考文献を用いて調べ、指示された様式でまとめる。<2時間> 授業後学習：授業内容を復習し、確認テストに備える。<2時間>						
授業方法	極力双方向の講義を目指したいと思います。 理解の確認・知識の整理のためにチェックシート(確認テスト)を実施します。						
評価基準と評価方法	期末試験70%：到達目標(1)(2)の到達度評価 平常点30%：授業内容コメントの提出・チェックシートでの既習事項の的確な理解の評価、到達目標(3)の到達度の評価						
履修上の注意	理解度を測りながらすすむつもりなので、講義スケジュールの順序・かける時間などに多少の変更がでる可能性があります。 提出物を指示された場合は期日を厳守すること。 問題意識をもって、積極的に授業に参加されることを期待します。 2/3以上の出席に満たない者は期末試験の受験資格を失います。						
教科書	授業資料を基本的にはmanabaで配信します。						
参考書	中野剛志著『奇跡の社会科学』(ベストセラーズ) 宇野重規著『民主主義とは何か』(講談社現代新書) 他、授業中に紹介します。						

科目区分	現代の教養系列／教養系列						
科目名	現代社会と政治						
担当教員	奥西 達也					科目ナンバ-	251190
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	政治とは何かを考える。政治のしくみを学ぶ。トピカルな政治問題を理解する。						
授業の概要	授業では、現代の政治のしくみが歴史的にどう出来上ったのか、それはどのように機能しているのか、民主主義はどのようなメリット・デメリットをもっているのかを学びます。それをもとに現在起こっているトピカルな政治問題を読み解いたり、私たちの日常生活と政治との関わりの深さを具体例を挙げながら認識してもらいます。新聞やメディアで話題に上っている政治関連記事やみなさんが関心を持っているトピック(アンケートでたずねます)についても時間が許す限りとりあげ検討していく予定です。						
到達目標	(1) 政治の基本的なしくみや制度、政治学上の初歩的な概念や主要な近代以降の政治思想が理解できる。【知識・理解】 (2) 政治(学)的な知識の学習を通して、政治に関わる具体的な事象や問題を理解できる。【知識・理解】 (3) トピカルな政治的事象や問題を自らの現実生活との関わりにおいて認識し、ネットや新聞の政治記事をこれまでより身近により興味をもって、読み、内容を考察できる。【知識・理解、態度・志向性】						
授業計画	1 はじめに：私たちと政治 2 政治とは何か：「政治」の両義性 3 古代～中世の共和制・民主制とその思想 4 マキャベッリと近代：リアリズム・シヴィックヒューマニズム 5 近代民主政治の思想と原理①：ホブズ・ロックを中心に 6 近代民主政治の思想と原理②：ルソー・バークを中心に 7 保守・革新という考え(5、6との関連) 8 現代民主政治のしくみ①：議会制民主主義の諸類型 9 現代民主政治のしくみ②：日本型民主主義の特徴 10 民主主義のメリットとデメリット 11 国際政治と日本①：政治的イデオリズム(理想主義)と政治的リアリズム 12 国際政治と日本②：パワーゲーム・国家安全保障・日本の状況とその向かう先は？ 13 政治と国家：国家機能の変遷・現代社会における国家の役割・官僚制化と民主主義 14 民主主義とメディア：世論の支配・操作/民主主義再考(最高!?) 15 まとめと期末試験						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	授業前学習：授業で提示されたトピックをWEBや参考文献を用いて調べ、指示された様式でまとめる。<2時間> 授業後学習：授業内容を復習し、確認テストに備える。<2時間>						
授業方法	極力双方向の講義を目指したいと思います。 理解の確認・知識の整理のためにチェックシート(確認テスト)を実施します。						
評価基準と評価方法	期末試験70%：到達目標(1)(2)の到達度評価 平常点30%：授業内容コメントの提出・チェックシートでの既習事項の的確な理解の評価、到達目標(3)の到達度の評価						
履修上の注意	理解度を測りながらすすむつもりなので、講義スケジュールの順序・かける時間などに多少の変更がでる可能性があります。 提出物を指示された場合は期日を厳守すること。 問題意識をもって、積極的に授業に参加されることを期待します。 2/3以上の出席に満たない者は期末試験の受験資格を失います。						
教科書	授業資料を基本的にはmanabaで配信します。						
参考書	中野剛志著『奇跡の社会科学』(ベストセラーズ) 宇野重規著『民主主義とは何か』(講談社現代新書) 他、授業中に紹介します。						

科目区分	現代の教養系列／教養系列						
科目名	現代社会とメディア						
担当教員	吉田 暁生					科目ナンバ-	Z51200
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	月曜4	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ							
授業の概要							
到達目標							
授業計画							
授業外における学習（準備学習の内容・時間）							
授業方法							
評価基準と評価方法							
履修上の注意							
教科書							
参考書							

科目区分	現代の教養系列／教養系列						
科目名	現代の倫理						
担当教員	濱崎 雅孝					科目ナンバ-	Z11260
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	現代社会の諸問題についての倫理的考察						
授業の概要	グローバル化が進む現代社会では、自分の意見をしっかりと持ち、それを他人にも分かる形で表現することが求められます。 この授業では、受講者一人一人がこれから社会で直面すると思われる倫理的問題を取り上げ、それについて各自が自分の意見を持つことができるように指導していきます。また、その自分の意見を、異なる世代、異なる文化背景を持つ人たちに正しく伝える技術を学びます。						
到達目標	(1) 社会に出たときにぶつかるであろう様々な人間関係の問題に対して、倫理的に正しく対処できる。【態度・志向性】 (2) 社会、文化、自然等に関わる幅広い教養を身につけることができる。【知識・理解】						
授業計画	第1回 善悪について、倫理とは何か、道徳とは何か 第2回 人間について、私とは誰か、人間らしい生き方とはどういうものか 第3回 犯罪について、少年犯罪は増えているのか、その原因は何か 第4回 社会について、監視社会は平和なのか、社会を作っているのは誰か 第5回 殺人について、なぜ人を殺してはいけないのか 第6回 死刑について、死刑制度は必要か、裁判員制度は必要か 第7回 自殺について、死にたいと言う人を助けることは正しいか 第8回 教育について、なぜ勉強しなければいけないのか、義務教育は必要か 第9回 母性について、母親になるとはどういうことか、母親の役割とは何か 第10回 父性について、父親の役割とは何か、父親は必要か 第11回 差別について、出生前診断を受けるべきか、産む権利と産まない権利 第12回 不倫について、不倫はなぜ悪いことなのか、浮気するのは人間の本能か 第13回 整形について、美容整形で幸せになれるのか、見た目のコンプレックスを解消する方法 第14回 震災について、阪神大震災と東日本大震災、原発は必要か 第15回 全体のまとめ、倫理的に生きるとは？						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	新聞、雑誌、ネットニュースなどで、授業で扱った内容に関わるものを探し、その内容を把握する。また、授業で出てきた倫理学の用語などについて、不明な点は講師に質問するか、自分で調べておく。（学習時間：＜4時間＞/週）。						
授業方法	講義形式で行います。 講義で扱われたテーマについて、小レポートを提出してもらいます。 学生の小レポートの内容を講師が発表し、さらにそれについての意見を述べてもらいます。						
評価基準と評価方法	平常点：30点（毎回の小レポートの内容を2点/1点/0点で採点していきます。欠席の場合は0点になります。） 期末レポート：70点（授業全体の理解度を見るためのレポートを提出してもらいます。）						
履修上の注意	毎回、深刻な事件（殺人などを含む）を題材とするので、上の授業計画に目を通して不安や不快感を持ってしまう人にはお勧めできません。事前に自分で判断してから履修するようにして下さい。						
教科書	特に指定はしません。毎回プリントを配布します。						
参考書	講義の中で紹介します。						

科目区分	現代の教養系列／教養系列						
科目名	神戸研究総論						
担当教員	単位認定者：田附 敏尚					科目ナンバ-	Z12200
学期	前期／1st semester	曜日・時限	火曜4	配当学年	2～3	単位数	2.0
授業のテーマ	歴史・生活・芸術文化などの面からの「神戸」探究						
授業の概要	本学の位置する「神戸」は「モダンな街」として語られるが、150年前の「神戸開港」以前にも長い歴史があり、各時代においてさまざまなドラマを展開してきた。そのような「神戸」の様々な面を、本学の教員と神戸市立博物館の学芸員がそれぞれの専門分野から多角的に論じ、その姿を明らかにする。						
到達目標	本学の所在地「神戸」について、各回で学んだ内容を理解し、多角的にその特徴や魅力を述べることができる。（知識・理解（2）） 地域社会への貢献に対する感覚を身につけることができる。（態度・志向性（2））						
授業計画	<p>【総論】</p> <p>1 「神戸研究総論」について（田附敏尚） ：本講義の目的と概要について解説する。</p> <p>【歴史】</p> <p>2 考古学（ゲスト・スピーカー：神戸市立博物館学芸員） ：六甲山系南麓の弥生時代の遺跡に着目し、高地性集落と銅鐸の謎について解説する。</p> <p>3 近世史（ゲスト・スピーカー：神戸市立博物館学芸員） ：神戸市立博物館所蔵の古地図を中心に神戸の歴史を探る。</p> <p>4 中世史（ゲスト・スピーカー：神戸市立博物館学芸員） ：今日も残る歴史の足跡をたどりながら、中世の神戸の様子を考察する。</p> <p>5 近代史（ゲスト・スピーカー：神戸市立博物館学芸員） ：近代神戸の大きな特徴であり、神戸のイメージを形成するもととなった旧神戸外国人居留地について、その成り立ちから返還までの歴史を居留地に関わった人物や建築物等に注目して紹介する。</p> <p>【芸術文化】</p> <p>6 神戸の美術工芸品①（ゲスト・スピーカー：神戸市立博物館学芸員） ：神戸市立博物館のびいどろ史料庫コレクション（ガラス工芸品）を紹介し、その意義を探る。</p> <p>7 神戸の美術工芸品②（ゲスト・スピーカー：神戸市立博物館学芸員） ：神戸市立博物館の美術コレクションを紹介し、その意義を探る。</p> <p>8 古典文学（長谷川佳男） ：『伊勢物語』や『源氏物語』で神戸が舞台となっている話を紹介し、平安時代の神戸の姿を考察する。</p> <p>9 神戸の書と芸術（丸山果織） ：書が海外でも評価されるきっかけとなった、神戸の書家と画家の交流について論じる。</p> <p>【生活】</p> <p>10 方言（田附敏尚） ：神戸周辺で使われていることばの変容について、複数の言語地図等から考察する。</p> <p>11 食生活（江弘毅） ：開港以来の神戸の洋食の系譜を概説する。</p> <p>12 ファッション（徳山孝子） ：“神戸ファッション”イコール“おしゃれ”というイメージを歴史的背景から読み解く。</p> <p>13 創造性に着目したまちづくり（鈴木亮太） ：創造都市・創造産業とは何かを学び、神戸市による様々な施策について考察する。</p> <p>14 経済史（ゲスト・スピーカー：神戸新聞社論説委員） ：神戸にあった伝説の総合商社「鈴木商店」の軌跡をたどり、現代にも響くメッセージを読み解く。</p> <p>【総括】</p> <p>15 総括（田附敏尚） ：ここまで学んだ内容を復習する課題に取り組む。</p>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	<p>授業前：授業計画に従って、次回の授業内容について図書館・インターネット等で下調べをすること。（学習時間：＜2時間＞）</p> <p>授業後：授業で取り上げた内容の要点と重要箇所の確認・整理。（学習時間：＜2時間＞） 授業で取り上げた場所へ足を運び、実感することも望ましい。</p>						
授業方法	<p>講義（オムニバス）</p> <p>本学教員担当8回（田附：第1, 10, 15回、長谷川（佳）：第8回、丸山：第9回、江：第11回、徳山：第12回、鈴木：第13回） ゲスト・スピーカー担当7回（神戸市立博物館学芸員：第2-7回、その他のゲスト・スピーカー：第14回）</p> <p>【実務経験のある教員等による授業】 神戸市立博物館の学芸員を講師として招き、博物館学芸員としての実務の経験を基にして、多角的かつ実践的な視点から「神戸」に関する研究を指導する。</p>						

評価基準と評価方法	各回の課題・リアクションペーパー65%、総括課題（テスト）35% ・各回で簡単な課題を課し、各回で評価する。 ・総括の回に、内容の復習もかねて簡便なテストを行う。 これらを単位認定者が取りまとめ、総合的に最終評価を下す。
履修上の注意	1. 毎回、授業内（授業後の場合もある）で課題・リアクションペーパーを提出する。 2. 各回の課題・リアクションペーパーは、授業内でmanabaからの提出を求めることがあるので、受講者はスマートフォン（あるいはPC・タブレット等）を持っているのであれば用意しておいてほしい。ただし、これらを使うかは回ごとに異なる可能性があるため、その回の教員の指示に従うこと。 3. 授業回数の3分の1以上欠席した者については、特段の理由ある場合を除き単位を認めない。 4. 私語を慎み、居眠りなども極力しないようにすること。 注意しても直らない場合は、退席を命じることがある（退席者は当該の回は欠席と見做す）。
教科書	使用しない。プリントを配布することがある。
参考書	授業時に随時紹介する。

科目区分	現代の教養系列／教養系列						
科目名	神戸論						
担当教員	江 弘毅					科目ナンバ-	U12050
学期	前期／1st semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	開港以来その都市としての性格を決定づけられた神戸の成り立ちを知り、その特徴と魅力を概観する。						
授業の概要	この授業では、松蔭が神戸・地元の大学であることを前提に、都市社会のモデルとして神戸を取りあげ、現代社会における都市生活についての独自の魅力と社会的な問題を理解し、その問題を解決する方法について学ぶ。最初に、神戸の歴史、開港が決定づけた街の性格、生活様式から文化までを具体的な実例によって学ぶ。続いて、神戸のたぐいまれな街の魅力とそのさまざまなコンテンツを知り理解する。最後に大水害、空襲による破壊、震災と復興を経験した都市として神戸を見直すことにより、今後、災害に備えた生活者として必要な知識をまとめる。						
到達目標	(1) 都市としての神戸の魅力について語り、書き、表現することができる。【知識・理解】 (2) 神戸を「わがまち」としてとらえ、独自のまちづくりについて立案することができる。【知識・理解】 (3) 神戸で都市生活、グルメやファッション、クリエイティブ産業にかかわる人的ネットワークをつくること ができる。【態度・志向性】						
授業計画	第1回 オリエンテーション。この授業でなにをやるのか。どんな授業なのか [PC必携] 第2回 神戸と二度の開港。古代から近世 [PC必携] 第3回 慶応3年(1868)の開港で街の性格が決定づけられた神戸 [PC必携] 第4回 開港と外国人の居住による文化 [PC必携] 第5回 外国人居留地、雑居地ほかの近代建築で神戸のまちをとらえる [PC必携] 第6回 開港と洋食文化 [PC必携] 第7回 神戸のパン、スイーツ [PC必携] 第8回 神戸と中国人、中華街の南京町 [PC必携] 第9回 神戸の観光 [PC必携] 第10回 神戸の地勢、自然 [PC必携] 第11回 災害と神戸 [PC必携] 第12回 洋装の黎明からファッション都市・神戸へ [PC必携] 第13回 阪神間モダニズムについて [PC必携] 第14回 メディアのなかの神戸 [PC必携] 第15回 神戸流生活術 [PC必携]						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	神戸の都市としての特徴や魅力をmanabaや参考書はじめ、文学作品、雑誌や新聞、印刷物、映像、デザイン、音楽、グルメ…から抽出し、資料としてストックし、学習すること(90分)。 その資料に基づき、「現地」「現場」を訪ねて実感すること(120分)。						
授業方法	あらかじめ毎回manabaのコースコンテンツに講義の内容をアップします。 レジュメや資料もmanabaにアップします。 講義についてのリアクションペーパーをmanabaのレポートに書いてください。 (BYOD対象科目)  【実務経験のある教員等による授業】 都市情報誌の編集長であった職歴を生かして、神戸におけるグルメ、ファッション、観光産業などの事例を紹介しつつ、実務家としての人的ネットワークを生かしたフィールドワークを行う。						
評価基準と評価方法	期末試験＝試論(1200字)50%。各回提出のリアクションペーパー(manabaのレポートに記入)30%、質問応答(コール&レスポンス)、授業中の発表発言20%。						
履修上の注意	出席が授業回数の3分の2に満たない者は期末試験を受けることが出来ません。						
教科書	なし。manabaと毎回の授業内容に応じて。レジュメや資料を配付します。						
参考書	『神戸学』崎山昌廣監修、神戸新聞総合出版センター ISBN:4-343-00353-1 『外国人居留地と神戸』田井玲子著、神戸新聞総合出版センター ISBN:9784343007339 『神戸と洋食』江弘毅著、神戸新聞総合出版センター、ISBN:9784343010575 『古地図で見る神戸』大國昌美著、神戸新聞総合出版センター ISBN:9784343006035 『灘の歴史』田辺真人監修、灘区80年史編集委員会編、神戸新聞総合出版センター ISBN:9784343006455 『ミナト神戸の宗教とコミュニティー』関西学院大学キリスト教と文化研究センター編、神戸新聞総合出版センター ISBN:9784343007254 『神戸外国人居留地ージャパン・クロニクル紙ジュビリーナンバー』神戸新聞出版センター ISBN:9784875210481						

参考書	『神戸の中国料理』神戸新聞出版センター ISBN:9784875211280 『南京町と神戸華僑』呉宏明、高橋晋一編著、松籟社 ISBN-10:4879843385
-----	---

科目区分	現代の教養系列／教養系列						
科目名	こころの健康						
担当教員	中井 和弥					科目ナンバ-	Z51130
学期	前期／1st semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	こころの健康に対する臨床心理学的理解						
授業の概要	本講では、こころの健康に問題を持つ人を理解し、援助するための実践的な心理学を学ぶ。具体的には、まず精神障害や心理的な問題、不適応行動を学習する。その上で、カウンセリングの場で実際に用いられている心理テストを体験する。さらに、実際に用いられている心理療法を学ぶことで、こころの健康の問題の理解から援助まで、トータルに学習する。						
到達目標	(1) こころの健康に関する基礎知識およびアプローチについて説明することができる【知識・理解】 (2) 自分や周囲のメンタルヘルスに対する興味をより具体的なものとして意識することができる【態度・志向性】						
授業計画	第1回 オリエンテーション 第2回 こころの健康概論 第3回 ストレス 第4回 こころの病①(うつ病) 第5回 こころの病②(アタッチメントの問題) 第6回 こころの病③(トラウマ・PTSD) 第7回 心理テスト①(概要) 第8回 心理テスト②(質問紙法) 第9回 心理療法①(心理療法に関する基本的な話) 第10回 心理療法②(ソリューション・フォーカスト・アプローチ) 第11回 心理療法③(マインドフルネス) 第12回 心理療法④(タッピングタッチ) 第13回 レジリエンス 第14回 強み 第15回 質疑応答・試験						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	授業前準備学習：各回授業で扱うテーマについて、書籍やインターネットを使って下調べをする<2時間> 授業後学習：授業で取り上げた内容の要点と重要箇所を確認・整理する<2時間>						
授業方法	講義：資料に沿って講義を行う。また、ワークなどの体験についてグループまたはペアによるディスカッションを行う。 manabaを使った質疑応答やレポート提出を行う。						
評価基準と評価方法	期末試験60%：臨床心理学の基礎知識に対する理解度、メンタルヘルスに対する自らの興味・関心の明確性・具体性について評価する。到達目標(1)(2)に関する到達度の確認。 平常点40%：提出物の内容や授業への参加度などを評価する。到達目標(1)(2)に関する到達度の確認。						
履修上の注意	出席重視、私語厳禁。出席回数が開講日数の2/3に満たない者は、受験資格を失います。						
教科書	授業中にプリントを配布します。						
参考書	授業中に適宜紹介します。						

科目区分	現代の教養系列／教養系列						
科目名	こころの健康						
担当教員	中井 和弥					科目ナンバ-	Z51130
学期	前期／1st semester	曜日・時限	木曜2	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	こころの健康に対する臨床心理学的理解						
授業の概要	本講では、こころの健康に問題を持つ人を理解し、援助するための実践的な心理学を学ぶ。具体的には、まず精神障害や心理的な問題、不適応行動を学習する。その上で、カウンセリングの場で実際に用いられている心理テストを体験する。さらに、実際に用いられている心理療法を学ぶことで、こころの健康の問題の理解から援助まで、トータルに学習する。						
到達目標	(1) こころの健康に関する基礎知識およびアプローチについて説明することができる【知識・理解】 (2) 自分や周囲のメンタルヘルスに対する興味をより具体的なものとして意識することができる【態度・志向性】						
授業計画	第1回 オリエンテーション 第2回 こころの健康概論 第3回 ストレス 第4回 こころの病①(うつ病) 第5回 こころの病②(アタッチメントの問題) 第6回 こころの病③(トラウマ・PTSD) 第7回 心理テスト①(概要) 第8回 心理テスト②(質問紙法) 第9回 心理療法①(心理療法に関する基本的な話) 第10回 心理療法②(ソリューション・フォーカスト・アプローチ) 第11回 心理療法③(マインドフルネス) 第12回 心理療法④(タッピングタッチ) 第13回 レジリエンス 第14回 強み 第15回 質疑応答・試験						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	授業前準備学習：各回授業で扱うテーマについて、書籍やインターネットを使って下調べをする<2時間> 授業後学習：授業で取り上げた内容の要点と重要箇所を確認・整理する<2時間>						
授業方法	講義：資料に沿って講義を行う。また、ワークなどの体験についてグループまたはペアによるディスカッションを行う。 manabaを使った質疑応答やレポート提出を行う。						
評価基準と評価方法	期末試験60%：臨床心理学の基礎知識に対する理解度、メンタルヘルスに対する自らの興味・関心の明確性・具体性について評価する。到達目標(1)(2)に関する到達度の確認。 平常点40%：提出物の内容や授業への参加度などを評価する。到達目標(1)(2)に関する到達度の確認。						
履修上の注意	出席重視、私語厳禁。出席回数が開講日数の2/3に満たない者は、受験資格を失います。						
教科書	授業中にプリントを配布します。						
参考書	授業中に適宜紹介します。						

科目区分	現代の教養系列／教養系列						
科目名	こころの健康						
担当教員	水澤 慶緒里					科目ナンバ-	Z51130
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	月曜4	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	こころの健康に対する臨床心理学的理解						
授業の概要	本講では、こころの健康に問題を持つ人を理解し、援助するための実践的な心理学を学ぶ。具体的には、まず精神障害や心理的な問題、不適応行動を学習する。その上で、カウンセリングの場で実際に用いられている心理テストを体験する。さらに、実際に用いられている心理療法を学ぶことで、こころの健康の問題の理解から援助まで、トータルに学習する。						
到達目標	(1) こころの健康に関する基礎知識およびアプローチについて説明することができる【知識・理解】 (2) 自分や周囲のメンタルヘルスに対する興味をより具体的なものとして意識することができる【態度・志向性】						
授業計画	第1回 本講義についての概要 第2回 こころの健康とストレス 第3回 思春期のこころの病①(統合失調症、うつ病) 第4回 思春期のこころの病②(不安障害) 第5回 思春期のこころの病③(発達障害) 第6回 思春期のこころの病④(パーソナリティ障害、ジェンダー) 第7回 こころの病まとめ 第8回 こころの病まとめ 第9回 心理テスト①(Big5) 第10回 心理テスト②(エゴグラム) 第11回 心理テスト③(投射法) 第12回 心理療法①(精神分析・来談者中心療法・認知行動療法) 第13回 心理療法②(ソリューション・フォーカスト・アプローチ) 第14回 講義全体の整理とまとめ 第15回 質疑応答・試験						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	授業前準備学習：各回授業で扱うテーマについて、書籍やインターネットを使って下調べをする<2時間> 授業後学習：授業で取り上げた内容の要点と重要箇所を確認・整理する<2時間>						
授業方法	講義：資料に沿って講義を行う。また、心理テストやワークなどの体験についてグループまたはペアによるディスカッションを行う。 manabaを使った質疑応答やレポート提出を行う。						
評価基準と評価方法	期末試験60%：臨床心理学の基礎知識に対する理解度、メンタルヘルスに対する自らの興味・関心の明確性・具体性について評価する。到達目標(1)(2)に関する到達度の確認。 平常点40%：提出物の内容や授業への参加度などを評価する。到達目標(1)(2)に関する到達度の確認。						
履修上の注意	出席重視、私語厳禁。出席回数が開講日数の2/3に満たない者は、受験資格を失う。						
教科書	なし。 必要な資料を提示する。						
参考書	授業内で適時紹介する。						

科目区分	現代の教養系列／教養系列						
科目名	古典文学史						
担当教員	長谷川 佳男					科目ナンバ-	J72130
学期	前期／1st semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	日本古典文学を時間軸を意識して全体的に整理することで、その価値を再認識するとともに、未来の展望を可能にする学力の陶冶に資する。						
授業の概要	日本文学がどのように生まれ、どのように生まれ、どのように近代にまで展開してきたか、その特徴をジャンルと時間の二つの角度から考察する。						
到達目標	(1) 日本古典文学のたどった歴史の流れの大局を説明できる。【知識・理解】 (2) 世界に認知される代表的な作品の価値ある一部を具体的に挙げて楽しみながら、作者、時代背景、ジャンル等に関する特徴を説明できる。【知識・理解】						
授業計画	第1回 古典文学史概説 日本文学の始発 文字との出会い 『古事記』 第2回 『万葉集』の代表歌人とジャンル 第3回 『万葉集』の多様性と大伴家持 第4回 平安時代 中国文学の学習から遣唐使廃止を経て多ジャンル展開へ 第5回 貴族の叙情歌の達成 『古今和歌集』 第6回 古典文学の頂点① 『枕草子』 第7回 古典文学の頂点② 『源氏物語』 ① 第8回 古典文学の頂点③ 『源氏物語』 ② ここまでのまとめ プレテスト 第9回 新しい叙景歌の象徴美 『新古今和歌集』から連歌・連句へ 第10回 隠者の文学と中世日記文学 第11回 武士・民衆の文学への新展開 『平家物語』 第12回 日本文化研究への情熱 契沖と本居宣長 第13回 市民の文学 人形浄瑠璃と近松門左衛門・俳諧と松尾芭蕉 第14回 市民の文学 小説家の誕生 井原西鶴・上田秋成 第15回 まとめと期末試験						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	授業前学習：配付資料に基づき各時代ごとの基礎知識(作品・作者・ジャンル・年代など)について事前に確認し、文学作品本文を音読しておく。〈2時間〉 授業後学習：授業で扱った基礎知識(作品・作者・ジャンル・年代など)を点検・記憶し、授業で学んだ語義語法の理解に基づいて文学作品を読み直し、授業で解説された文学作品の特徴や価値の理解を深める。〈2時間〉						
授業方法	基本的な知識や流れを確認した上で、その理解を深める講義を行う。その際、プリント配布により代表作品の名シーンを鑑賞を通じ、知識と本文の鑑賞とを結び付けて理解を深める。ときに、分かち合いなどを通じて勉強上の問題点を整理する。						
評価基準と評価方法	期末試験とプレテスト	90%	到達目標 (1) (2) に関する到達度の確認。				
	取り組み姿勢	10%	到達目標 (1) (2) に関する到達度の確認。				
履修上の注意	3分の2以上出席に満たない者は期末試験を受ける資格が無いものとする。						
教科書	適宜プリントを配布する。						
参考書	Donald Keene 『日本文学史』 古代・中世編一～六・近世編一～三 中公文庫 小西基一 『日本文藝史』 全五巻 講談社						

科目区分	現代の教養系列／教養系列						
科目名	作家と文学作品A						
担当教員	岡崎 昌宏					科目ナンバ-	Z5103A
学期	前期／1st semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	日本近代文学の代表的な作家について学び、その代表作を読むことを通して、作品を自発的に読み考える姿勢を身につける。						
授業の概要	日本近代文学の代表的な作家とその位置づけについて説明し、その代表作を読むことを通して作品を鑑賞する方法を指導する。作品から自分なりに得たもの考えたことを受講者が発表する機会も設ける。さらに、受講者が今後、読む作品を自身の関心に即して見出していくようになることを目指す。						
到達目標	(1) 日本近代文学の代表的な作家とその位置づけについての基礎的な知識を持っている。【知識・理解】 (2) 文学作品について自分なりに考えて発表することができる。【汎用的技能】 (3) 文学作品への関心を持ち、自発的に読み続けていく姿勢を身につける。【態度・志向性】						
授業計画	第1回 概説 第2回 近代文学の流れ (1) 明治 第3回 近代文学の流れ (2) 大正・昭和 第4回 夏目漱石とその作品 (1) 作家とその位置づけ 第5回 夏目漱石とその作品 (2) 代表作を読む 第6回 夏目漱石とその作品 (3) 代表作を読む (続き) 第7回 志賀直哉とその作品 (1) 作家とその位置づけ 第8回 志賀直哉とその作品 (2) 代表作を読む 第9回 芥川龍之介とその作品 (1) 作家とその位置づけ 第10回 芥川龍之介とその作品 (2) 代表作を読む 第11回 芥川龍之介とその作品 (3) 代表作を読む (続き) 第12回 太宰治とその作品 (1) 作家とその位置づけ 第13回 太宰治とその作品 (2) 代表作を読む 第14回 太宰治とその作品 (3) 代表作を読む (続き) 第15回 まとめ						
授業外における学習 (準備学習の内容・時間)	授業前準備学習・授業で扱う作品を事前に読み、考えをまとめておく。(2時間) 授業後学習・課題に取り組むことで復習をし、考えを深める。(2時間)						
授業方法	毎回講義を行うが、作品に対する受講者の意見を全員で考える機会なども設ける。						
評価基準と評価方法	授業参加姿勢45% (受講態度や、作品に対する受講者の意見を全員で考えるときの態度などを含む) 各回の課題55% (提出された課題は授業内で紹介し、受講者全員で検討することがある) 授業参加によって特に到達目標の(2)、課題によって(1)～(3)の到達度を確認する。						
履修上の注意	授業で扱う作品 (多くは短篇小説) は授業中に指示する。 出席は重視する。授業に出席しなければ課題に取り組めない。 正当な理由なく授業回数の3分の1を超えて欠席した者は、受講資格を失う。						
教科書	プリントを使用する場合と、各自作品を入手する場合がある。授業中に指示する。						
参考書	授業中に紹介する。						

科目区分	現代の教養系列／教養系列						
科目名	作家と文学作品B						
担当教員	岡崎 昌宏					科目ナンバ-	Z5103B
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	日本現代文学の代表的な作家について学び、その代表作を読むことを通して、作品を鑑賞する方法、作品を自発的に読み考える姿勢を身につける。授業の後半では、特定の観点から作品を読み、文学を通して文化を考える重要性を理解する。						
授業の概要	日本現代文学の代表的な作家とその位置づけについて説明し、その代表作を読むことを通して作品を鑑賞する方法を指導する。また、作品から自分なりに得たもの考えたことを受講者が発表する機会も設ける。さらに、受講者が今後、読む作品を自身の関心に即して見出していくようになることを目指す。						
到達目標	(1) 日本現代文学の代表的な作家とその位置づけについての基礎的な知識を持つことができる。【知識・理解】 (2) 文学作品について自分なりに考えて発表することができる。【汎用的技能】 (3) 文学作品への関心を持ち、自発的に読み続けていく姿勢を身につけることができる。【態度・志向性】						
授業計画	第1回 概説 第2回 現代文学の流れ (1) 昭和前半 第3回 現代文学の流れ (2) 昭和後半・平成 第4回 現代文学の代表的な作家 (1) 第5回 現代文学の代表的な作家 (2) 第6回 現代文学の代表的な作家 (3) 第7回 現代文学と日本文化 第8回 作家の代表作と自然—夏目漱石 第9回 作家の代表作と自然—芥川龍之介 第10回 作家の代表作と自然—志賀直哉 第11回 作家の代表作と自然—太宰治 第12回 作家の代表作と自然—川端康成 第13回 作家の代表作と自然—井上靖 第14回 作家の代表作と自然—北杜夫 第15回 まとめ						
授業外における学習 (準備学習の内容・時間)	授業前準備学習・授業で扱う作品を事前に読み、考えをまとめておく。(2時間) 授業後学習・課題に取り組むことで復習をし、考えを深める。(2時間)						
授業方法	毎回講義を行うが、作品に対する受講者の意見を全員で考える機会なども設ける。						
評価基準と評価方法	授業参加姿勢45% (受講態度や、作品に対する受講者の意見を全員で考えるときの態度などを含む) 各回の課題55% (提出された課題は、授業内で紹介し、受講者全員で検討することがある) 授業参加によって特に到達目標の(2)、課題によって(1)～(3)の到達度を確認する。						
履修上の注意	授業で扱う作品は授業中に指示する。 出席は重視する。授業に出席しなければ課題に取り組めない。 正当な理由なく授業回数の3分の1を超えて欠席した者は、受講資格を失う。						
教科書	プリントを使用する場合と、各自作品を入手する場合がある。授業中に指示する。						
参考書	授業中に紹介する。						

科目区分	現代の教養系列／教養系列						
科目名	茶道文化と美術						
担当教員	橘 倫子					科目ナンバ	J72500
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	火曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	日本における喫茶文化の歴史の変遷と、美的意識や精神性の形成と展開を概観する。						
授業の概要	喫茶文化である茶道は、様々な日本の伝統文化と密接に関わりを持ちながら、総合芸術・総合文化へと発展した。中国から伝来した喫茶習慣が日本特有の文化へと昇華していく歴史の変遷を概観するとともに、茶道における美意識や精神性などを通して日本の伝統文化の特質を美術的観点からも考察する。						
到達目標	(1)関連する様々な事象の知識とともに、「喫茶」における日本の伝統文化のあり方や美的な傾向について深く理解することができる。【知識・理解】 (2)「茶道」という芸道文化を切り口に、日本の伝統文化の特色を考察し、次世代の人々や諸外国の人々に紹介することができる。【汎用的技能】						
授業計画	第1回 イントロダクションー「お茶」とは何かー 第2回 茶の種類と日本への伝来 第3回 南北朝・室町期の「点茶」ー会所の茶、茶寄合(鬪茶)、門前の茶屋ー 第4回 「茶の湯」の始まりと干利休にみるわび茶の美意識 第5回 点茶法と茶道具にみる用の美 第6回 茶事の構成ー炭・懐石料理・菓子と濃茶・薄茶ー 第7回 総合芸術・総合文化としての茶道①ー華道、香道、書、文房四宝との関わり 第8回 総合芸術・総合文化としての茶道②ー懐石料理、菓子、茶室建築、露地 第9回 総合芸術・総合文化としての茶道③ー茶道具(陶磁器、漆器、金工、竹工) 第10回 総合芸術・総合文化としての茶道④ー仏教、儒教、道教、キリスト教との関わり 第11回 総合芸術・総合文化としての茶道⑤ー文学(源氏物語、新古今和歌集、俳諧など)との関わり 第12回 武家の茶と家元制度 第13回 煎茶の流行と文人趣味 第14回 「茶の湯」の近代化ー女性教育と茶道、近代数寄者ー 第15回 茶道文化と美術のまとめと試験						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	授業前学習：第1回の授業で指示された、毎授業ごとの教科書の指定ページを読了しておき、図書館にある下記の参考書などを用いて、各回の授業のテーマに関する下調べをしておく。(学習時間：2時間) 授業後学習：manaba上で復習の小テストやレポート課題をオンライン入力し、レジメの重点事項を確認し整理しておく。(学習時間：2時間) なお、「茶の湯」「茶道」に関連した新聞記事やテレビの特別番組、美術館の公式SNSなどを読んだり視聴したりすること。近隣の博物館・美術館で開催される「茶道に関する歴史や美術」などの展覧会を観覧することなども、授業外の学習における大切な取り組みである。						
授業方法	基本的には、各回設定のテーマに基づくレジメや資料、写真画像の提示などを通じて講義を行なう。manabaやZoomの機能を利用して、レジメや資料の配付と閲覧、オンライン入力による復習の小テストやレポート課題を指示し実施する。また、茶道をより深く理解するためには点茶(抹茶を点てる)経験は有効であるので、デモンストラーションや簡易体験を取り入れていく。						
評価基準と評価方法	期末試験70%：授業で扱った講義内容に関して、主として到達目標(1)の【知識・理解】の観点から評価する。 平常点15%：授業や質疑応答への意欲、レジメや配付資料類への対処などを総合的に判断して評価する。 小テスト・レポート課題15%：毎回の小テストや出題したレポート課題に対する、内容の整理と正確さ、自身のコメントや疑問点などの記述に対して、主として到達目標(2)の【汎用的技能】の観点から評価する。 課題に対するフィードバックの方法 平常時の質問は授業中に解説し、レポート課題などはmanabaで対応する。						
履修上の注意	(1)出席回数が開講日数の4/5に満たない者は、原則単位認定を行わない。 (2)配布したレジメなどは可能ならばファイリングし、毎回の授業に持参すること。 (3)近隣の博物館等の茶の湯などの展覧会を見学したうえで内容をまとめるレポート課題を出す場合があり、その際は交通費や入館料等は受講生の自己負担である。 (4)授業内容は茶道文化検定3級の出題範囲をカバーしており、小テストでは過去の検定問題などを出題するので、検定受験を希望する人は参考書欄の『茶の湯がわかる本』も入手することが望ましい。						
教科書	『茶の湯と日本文化ー飲食・道具・空間・思想からー』神津朝夫著 淡交社(2012) ISBN:978-4-473-03849-4 なお、各回の授業ごとにレジメや資料類を適宜配布する。						
参考書	『茶の湯がわかる本』第2版 茶道資料館監修 淡交社〔2023.2〕ISBN978-4-473-04468-6 『茶道具の鑑賞と基礎知識』茶道資料館編 淡交社〔2002〕ISBN:978-4-473-01862-5 『茶道聚錦』(全13巻)小学館〔1983-87〕ISBN:978-4-093-84001-9 ほか 『裏千家今日庵歴代』第一巻：利休宗易 千宗室監修 淡交社〔2008〕ISBN:978-4-473-03451-9						

科目区分	現代の教養系列／教養系列						
科目名	産業史						
担当教員	田口 直樹					科目ナンバ-	251100
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	AI、ビッグデータ、IoT、ロボティクス等の先端技術が高度化してあらゆる産業に取り入れられることで生活が大きく変化しつつあり、第四次産業革命が進行しているとも言われている。これまでも産業とテクノロジーという視点から歴史を学び、現代の諸問題も歴史的視点から考える姿勢を養う。						
授業の概要	私たちは現在、非常に豊かつ便利な社会で生活している。だが、この豊かな社会は、突然そして自然発生的に我々の前に出現したわけではない。先人たちが様々な困難に直面し、それらを新発見や発明の積み重ねによって克服しながら築き上げたものである。そのような歴史を、農耕革命、科学の発展、産業革命、情報革命と、それら産業とテクノロジーの発展による生活の変化という視点から学ぶ。また地球環境問題など産業の発展による影の部分について考える。						
到達目標	(1) 産業とテクノロジーの歴史に関する基本的知識を持ち、それにとまなう生活の変化を理解できる。【知識・理解】 (2) 産業とテクノロジーの発展によって起きた負の歴史もふくめた歴史的視点から、現在の生活や環境に起きている問題をとらえる姿勢を身につけることができる。【態度・志向性】						
授業計画	第1回 産業史の講義について：講義概要と講義の進め方、成績評価の仕方 第2回 技術発展の理論と歴史 第3回 20世紀システムの展開 第4回 イノベーションの理論と技術 第5回 現代技術論の課題 第6回 自動車産業における新技術の普及とトヨタ生産システム 第7回 部品サプライヤーにおけるトヨタ生産システムの新展開と実践 第8回 中小製造業の技術と技能 第9回 中小企業ネットワークと技術形成 第10回 現代における在来技術と技術形成の地域的基盤 第11回 情報技術の導入と技術変革 第12回 オートメーション化のリスクと安全 第13回 環境に配慮した技術形成とその課題 第14回 産学連携による技術形成と移転 第15回 講義のまとめ：技術の形成の論理と実態						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：各回で扱うテキストの該当箇所を予習し、分からない箇所を明確にし、授業を聞いてもわからない部分は授業中に質問できるようにしておくこと。学習時間（2時間） 授業後学習：授業内で学習した内容を復習するとともに、講義内容に関する感想と質問をmanabaコースコンテンツに投稿すること。学習時間（2時間）						
授業方法	テキストにもとづき講義を行う。						
評価基準と評価方法	講義中に行う簡単な確認小テスト（20%）および最終授業において行う期末テスト（80%）により成績評価を行う。						
履修上の注意	毎回、当該授業内容の簡単な確認小テストを行うので必ず授業に参加すること。						
教科書	田口直樹編著『技術と経営－技術形成の論理と実態』学文社（2025年7月刊行予定、予価2700円）						
参考書	講義中に適宜指示する。						

科目区分	現代の教養系列／教養系列						
科目名	社会学概論						
担当教員	津田 翔太郎					科目ナンバ-	Z51160
学期	前期／1st semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	社会学の基本的な考え方を理解すること。						
授業の概要	日々の生活の中で感じる、「この社会、生きやすいな／生きにくいな」という気持ちは、様々な「縛り（＝ルールや場の雰囲気）」の影響を受けて形成されます。この授業は、そのような「縛り」の正体を知ること、自分なりに「社会」と向き合えるようになることを目的として実施します。						
到達目標	1. 社会学の基本的な考え方を理解し、説明できるようになること。（知識・理解） 2. 自分たちが生きている現代社会について、社会学の観点から考えられるようになること。（態度・志向性）						
授業計画	第1回 インTRODクシヨン：社会学とはどのような学問か 第2回 自己と他者の社会学(1)：若者の友人関係 第3回 自己と他者の社会学(2)：アイデンティティ（私らしさ）と承認 第4回 多様な性の社会学：ジェンダーとセクシャリティ 第5回 労働の社会学：「働くこと」の今日的な特徴と課題 第6回 消費の社会学：現代的な消費のスタイル 第7回 文化の社会学：「オタク」の歴史と現在 第8回 家族の社会学：恋愛・結婚 第9回 医療の社会学：社会学の観点からみる健康・医療 第10回 宗教の社会学：宗教の特徴と現代的な意義 第11回 教育の社会学：学校教育の特徴と課題 第12回 地域の社会学：地域社会の課題と解決に向けた取り組み 第13回 グローバル化の社会学：グローバル化とエスニシティ 第14回 メディアの社会学：メディアの歴史と今日的な特徴 第15回 まとめと試験						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：前回の授業内容を復習しておくこと。（学習時間：90分） 授業後学習：参考書および授業内で紹介した資料について、適宜自分で読んでおくこと。（学習時間：90分）						
授業方法	講義形式で行います。						
評価基準と評価方法	試験70%：筆記試験を予定。到達目標1と2に関する到達度を確認する。 平常点30%：各回の授業で配布するリアクションペーパーで授業内容の理解度と見解を確認する。						
履修上の注意	・リアクションペーパー作成のため、パソコンを持ってくること。パソコンがない場合は、紙を配布して対応します。 ・授業は配布プリントを用いて行いますが、要点を口頭・パワーポイント・板書等を用いて説明しますので、必要に応じてノートを取るようになしてください。 ・私語など、他者の受講を妨げる行為は厳しく対処します。						
教科書	なし。						
参考書	・「大学生のための社会学入門／篠原清夫・栗田真樹：晃洋書房、2016、ISBN:9784771027176」※購入の必要はありません。 ・その他、授業中に適宜指示します。						

科目区分	現代の教養系列／教養系列						
科目名	社会学概論						
担当教員	津田 翔太郎					科目ナンバ-	Z51160
学期	前期／1st semester	曜日・時限	水曜5	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	社会学の基本的な考え方を理解すること。						
授業の概要	日々の生活の中で感じる、「この社会、生きやすいな／生きにくいな」という気持ちは、様々な「縛り（＝ルールや場の雰囲気）」の影響を受けて形成されます。この授業は、そのような「縛り」の正体を知ること、自分なりに「社会」と向き合えるようになることを目的として実施します。						
到達目標	1. 社会学の基本的な考え方を理解し、説明できるようになること。（知識・理解） 2. 自分たちが生きている現代社会について、社会学の観点から考えられるようになること。（態度・志向性）						
授業計画	第1回 インTRODakション：社会学とはどのような学問か 第2回 自己と他者の社会学(1)：若者の友人関係 第3回 自己と他者の社会学(2)：アイデンティティ（私らしさ）と承認 第4回 多様な性の社会学：ジェンダーとセクシャリティ 第5回 労働の社会学：「働くこと」の今日的な特徴と課題 第6回 消費の社会学：現代的な消費のスタイル 第7回 文化の社会学：「オタク」の歴史と現在 第8回 家族の社会学：恋愛・結婚 第9回 医療の社会学：社会学の観点からみる健康・医療 第10回 宗教の社会学：宗教の特徴と現代的な意義 第11回 教育の社会学：学校教育の特徴と課題 第12回 地域の社会学：地域社会の課題と解決に向けた取り組み 第13回 グローバル化の社会学：グローバル化とエスニシティ 第14回 メディアの社会学：メディアの歴史と今日的な特徴 第15回 まとめと試験						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：前回の授業内容を復習しておくこと。（学習時間：90分） 授業後学習：参考書および授業内で紹介した資料について、適宜自分で読んでおくこと。（学習時間：90分）						
授業方法	講義形式で行います。						
評価基準と評価方法	試験70%：筆記試験を予定。到達目標1と2に関する到達度を確認する。 平常点30%：各回の授業で配布するリアクションペーパーで授業内容の理解度と見解を確認する。						
履修上の注意	・リアクションペーパー作成のため、パソコンを持ってくること。パソコンがない場合は、紙を配布して対応します。 ・授業は配布プリントを用いて行いますが、要点を口頭・パワーポイント・板書等を用いて説明しますので、必要に応じてノートを取るようになしてください。 ・私語など、他者の受講を妨げる行為は厳しく対処します。						
教科書	なし。						
参考書	・「大学生のための社会学入門／篠原清夫・栗田真樹：晃洋書房、2016、ISBN:9784771027176」※購入の必要はありません。 ・その他、授業中に適宜指示します。						

科目区分	現代の教養系列／教養系列						
科目名	社会心理学						
担当教員	待田 昌二					科目ナンバ-	251120
学期	前期／1st semester	曜日・時限	木曜4	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	個人、対人、集団に関する社会心理学の知見、理論を習得する。						
授業の概要	個人の行動や態度、感情や性格などは、生育環境や現在の社会的環境、身近な他者の存在などによって大きく影響を受けている。反対に一人一人の行動が、思わぬ集合現象や集団的活動を引き起こす。本講義では、こうした個人と社会の相互影響について理解すべく、社会における人間の意識や行動に関する社会心理学の知見、理論を学習する。						
到達目標	(1) 社会心理学的な考え方を理解し、社会における人間の意識や行動に関する社会心理学の基礎的知識を持っている。【知識・理解】 (2) 自身の心と行動について社会心理学的な観点から考えることができる。【態度・志向性】						
授業計画	第2回から第15回までの授業回で [PC必携] 1. 社会的動物としての人間 2. 観察学習と模倣 (他者から学ぶ能力) 3. 集団意識と排斥：集団への所属 4. 集団意識と排斥：社会的影響 5. 集団意識と排斥：社会的比較と自己確証動機 6. 集団意識と排斥：アイデンティティ 7. 集団意識と排斥：ステレオタイプと偏見 8. 集団意識と排斥：怒りと攻撃 9. 他者の必要性和協力：自己開示、自己呈示 10. 他者の必要性和協力：好意の形成と返報性 11. 他者の必要性和協力：援助 (見知らぬ他者への援助) 12. 他者の必要性和協力：社会的ジレンマと協力 13. 協力の促進と達成度確認試験 14. 情報社会の心理学 15. 消費社会の心理学 期末試験						
授業外における学習 (準備学習の内容・時間)	授業前学習： 松蔭manabaで授業前に示す課題を行う (学習時間1時間) 授業後学習： 松蔭manabaで授業後に示す課題を行うとともに授業内容を試験に結実させるよう復習し、身近な問題に結び付けて考える (学習時間3時間)						
授業方法	主に講義形式だが、manabaからの課題提出などを授業中に行う。<BYOD対象科目>						
評価基準と評価方法	授業中及び前後の学習課題の評価50%、試験50% 授業中及び前後の学習課題の評価： 授業前後の提出課題と授業中の提出課題の内容・記述の的確さを評価する。 到達目標 (1) と (2) に関する到達度の確認。 試験： 到達目標 (1) と (2) の到達度の確認。						
履修上の注意	大幅な遅刻は出席と認めない。スマートフォンの電源オフなど授業マナーを守ること。 松蔭manabaで示す授業前学習、授業後学習を行うこと。						
教科書	なし。適宜、松蔭manabaからプリントを配信する。						
参考書	松蔭manabaにおいて紹介する。						

科目区分	現代の教養系列／教養系列						
科目名	社会福祉概論						
担当教員	中村 和子					科目ナンバ-	Z11210
学期	前期／1st semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	身近な生活における基本的な社会福祉の制度を学び、「より良い生活の確立」と「ジェンダー」について考える。						
授業の概要	日常生活における社会福祉の基本的な制度や知識を講義形式で行う。身近な生活をテーマに学習資料として新聞スクラップ記事、視覚教材（動画など）や「学習シート」という授業で提示する資料、講師自身が日本（一部アメリカ）で経験した事例、エピソードを交えて学ぶ。授業中に他の受講生と互いの考えや意見を共有することで更に学びや自分の考えを深める。個別で授業外学修として「事前学習」に取り組んだ後、それをを用いてグループワーク（ディスカッションを含む）に繋げ、個人、グループで主体的に学ぶ、考えることを目指す。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 社会福祉の基礎的な制度と知識の学びを通して社会や社会福祉の現状を知り、学生が学んだ知識を自身の生活に応用でき、授業終了後も福祉に関心を持つきっかけになることができる【知識・理解】</li> <li>2. 社会福祉の領域で「より良い生活の確立」、「ジェンダー」について考え、その考えや学んだ知識を他者に表現在できる【知識・理解】</li> <li>3. 授業で学んだことを通して、自分は「どう生きるか」を自分の事として考えることができる【知識・理解】</li> <li>4. 授業テーマについて新聞スクラップ記事を活用した「授業外の学修-事前学習」のワークを通して、社会の出来事に自ら疑問を持ち、その疑問に対して深く考え、そして調べることで、「より良い生活の確立」、「快い生活」について考えることができる。グループ内でプレゼンテーションによって他者に自分の考えを論じることができ、また他者の考えや意見を尊重して聴くこと、問いかけることができる【態度・志向性】</li> </ol>						
授業計画	<p>第1回 「履修上の注意事項」の一部説明（全体はmanabaに提示） 社会福祉一ゆりかごから墓場まで ジェンダーとは、社会福祉の理念とより良い生活の確立とは</p> <p>第2回 戦前の福祉一家父長制度、慈善奉仕/戦後の昭和の社会福祉の歴史</p> <p>第3回 平成から令和の社会福祉とボランティア</p> <p>第4回 家庭・家族と福祉1ー結婚（性別役割分業の歴史ー明治民法と家父長制度、教育と良妻賢母）</p> <p>第5回 家庭・家族と福祉2ー家族とは（男性の育児制度、ワークライフバランス、家族と8050問題）</p> <p>第6回 社会的養護ー里親制度、特別養子縁組</p> <p>第7回 雇用と社会保障1ー働き方（収入格差、扶養家族）、高齢者雇用/公的医療保険</p> <p>第8回 第1回目小テスト 高齢者と社会保障2ー高齢者の生活/公的年金</p> <p>第9回 高齢者と社会保障3ー在職高齢年金、年金の歴史</p> <p>第10回 介護と社会保障4ージェンダーと介護、介護問題/介護保険</p> <p>第11回 グループワークー授業外の学修「事前学習」を用いてグループ内でのプレゼンテーションとディスカッション</p> <p>第12回 精神障がい者と福祉1ー依存症と自助グループ</p> <p>第13回 障がい者と雇用ー法定雇用率、自立支援事業とジョブコーチ制度/身体障害者補助犬法と入店拒否</p> <p>第14回 身体障がい者と生活ー介助犬による身体障害者補助犬法を動画で学ぶ動画視聴後のワーク</p> <p>第15回 小テスト（2回目）/ワークー学習シートを用いて（自分はどう生きるか）を考える（記述）</p>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) ワークシート：授業中に学んだことについていくつかの問に具体的に解答を述べ、提出。11回（学習時間各60分で合計660分）</li> <li>(2) 事前学習/事後学習：新聞スクラップ記事を活用し、その記事に疑問を持ち、深く考え、調べ具体的に記述するワーク。それを授業中にグループ内でプレゼンテーション（紹介）ができるために準備する。事後学習として、他の受講生から学べたことなどから紹介に沿って解答し、提出するための学修、事前・事後学習の提出は松蔭manabaから。（合計 学習時間900分）</li> <li>(3) 小テスト（知識確認テスト）のための予習・復習：毎回の授業後に資料の「学習シート」の知識の予習と学習。（学習時間各回90分で合計1350分）</li> </ol> <p>(1)～(3)合計 2910分</p>						
授業方法	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 知識習得のための講義形式。</li> <li>(2) 自分の考えを論じ、他者と共有するためのディスカッション、プレゼンテーションのアクティブラーニング型形式。</li> <li>(3) 教材・資料学習ーDVD、動画、著書の紹介、事例やエピソード、新聞スクラップ記事、資料として「学習シート」（授業で配布またはmanabaから提示）などを使用して理解を深める。</li> <li>(4) 授業外の学修ー事前・事後学習はPBL（課題解決型学習）。</li> <li>(5) 授業で学んだことについて個別/グループワークシートを授業内外で取り組む（提出）。</li> </ol>						
評価基準と評価方法	<ol style="list-style-type: none"> <li>(a) 小テスト（知識確認テスト）（2回の小テストの合計得点の30%）：予習/復習と積極的な受講をして知識習得と理解度を高めたかを確認するために知識中心の設問で評価する。到達目標(1)に関する到達度の確認。 授業内での提出物 70%：授業中の個別/グループワークシート、授業外の学修（事前/事後学習）によってどのようなことが学べ、考えたのか具体的に自分の言葉で述べることができ、提出期限厳守できたか評価する。 評価方法の詳細は、授業開始時に「履修上の注意事項」を参照。到達目標(2)、(3)と(4)に関する到達度を確認（事前/事後学習については、到達目標(2)、(4)に関する到達度の確認）。</li> <li>(b) フィードバックとコメントは、事前/事後学習を含めて他のワークについては、授業中に全体的に行う。個別ワークを紹介する場合は、匿名行う。場合によっては、個別でmanabaからコメントを行うこともある。</li> <li>(c) 出席管理は、松蔭ポータルに授業終了後2週間以内に入力する予定のため、各自で管理チェックすること。この授業で定めている欠席回数に注意すること。</li> </ol>						

履修上の注意	(1) 授業中は、私語厳禁。携帯電話については、授業中に講師が指示したとき以外は授業中は基本的にはカバンの中に入れて受講。携帯機器（携帯電話）で授業に関係ない画面や操作をしているときは、全体の成績から減点をすることもある。 (2) 個別/グループワーク、視覚教材を授業中に使用して学ぶことが多いので、毎回出席することが原則。 (3) 5回以上の欠席（5回目含む）は最終成績は、全ての提出物や小テストを受けていても最終成績は「不可」となる。事前に実習や就活などで欠席することが分かっている場合は、その日程を速やかに授業開始または終了時に教室で直接伝えてください。その時に、学生課で申請した用紙のコピーや就活の証明できるコピーを提出すること。 (4) 遅刻・早退は、15分以内とし、連続の遅刻の場合は、授業の学びの妨げとなることもあるため事情を尋ねる時もある。詳細は、第1回目にmanabaから提示する「履修上の注意事項」を必ず参照すること。感染症で欠席した場合は、後日、その旨を証明できるように学生課で申請手続きをした場合は、そのコピーを提出すること。その場合は、欠席した授業については、調整する場合もある（それ以外の欠席においての措置などはない）。
教科書	使用しない。教材・資料を利用する予定（授業中、またはmanabaに提示）。
参考書	里親土井ホームの子どもたち/第6刷/土井高德/福村出版/2020年4月25日/ISBN978-4-571-42016-0 授業中に他にも著書を紹介する予定。 ※参考書は、個人で購入する必要はありません。

科目区分	現代の教養系列／教養系列						
科目名	消費生活論						
担当教員	青谷 実知代					科目ナンバ-	U12110
学期	前期／1st semester	曜日・時限	木曜1	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	目まぐるしく変化する状況を消費生活の視点から捉え、消費者と企業（生産者も含む）の双方向から理解することで持続可能な社会の形成を目指したライフスタイルの確立を目指す。						
授業の概要	私たちが普段使っているもの、身につけているもの、家にあるものは、ほとんどがどこかで購入されたものである。お店に出向いて買うこともあれば、インターネットで買うということもあるだろう。私たちがどのようにしてこうしたものを買って使っているのか、一連の消費行動を振り返りながら考えていく。そして、経済社会の変化と消費生活、消費者の権利と責任、消費者と企業や行政とのかかわり及び連携の在り方について学び、持続可能な社会の形成を考え、消費者の支援に必要な能力と態度とは何か理解を深めていく。						
到達目標	①経済社会の変化と消費生活の関係を理解することができる。（知識・理解） ②消費者の権利と責任を考え、実践していくために必要な態度・志向性を身につけることができる。（態度・志向性） ④持続可能な社会の形成を描くことができる。（汎用的技能）						
授業計画	第1回 個人としての消費者（家計の現状から） 第2回 消費生活の視点（知覚：人の数だけ現実が存在する）【PC必携】 第3回 生活における経済管理（学習：観察学習・・・動機づけ）【PC必携】 第4回 財・サービスの選択（記憶：思い出は美化される？）【PC必携】 第5回 多様化する流通・販売方法と消費者（態度：好き・嫌いはどうのように生まれるのか）【PC必携】 第6回 意思決定—なぜそれを買ったのか—【PC必携】 第7回 人の好みの違いと消費者の権利・責任【PC必携】 第8回 コミュニケーション—発信源効果とメッセージ効果—【PC必携】 第9回 店頭マーケティング—売れるお店はどうやってつくる？—【PC必携】 第10回 社会的存在としての消費者：アイデンティティ【PC必携】 第11回 家族の購買意思決定とライフサイクル、子供の社会化【PC必携】 第12回 集団—なぜ友人同士の服装は似てしまうのか？—【PC必携】 第13回 ステータス—なぜモノが集団のシンボルになるのか？—【PC必携】 第14回 持続可能な社会の形成と消費行動（サブカルチャー）【PC必携】 第15回 儀式としての消費（文化）と環境問題（まとめ）						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	【授業前】常に新聞を見て情報を集めておくこと。昨今の環境配慮などがどのように進んでいるのか読んでおく（学習時間：2時間） 【授業後】授業中に取り組んだ内容を含め、何を学び、どのように考えたのか・・・という自分の考えをまとめる（学習時間：2時間）						
授業方法	講義形式（BYOD対象科目） ・課題解決型 ・ディスカッションやディベート、プレゼンテーションを実施						
評価基準と評価方法	中間テスト（20%）、レポート（2回）manabaで提出（20%）、期末試験（60%）などによる総合評価						
履修上の注意	①新聞必読 ②授業中の携帯電話、メール、居眠り、20分以上の遅刻・途中退出など、厳しく対処する。						
教科書	授業中に紹介する						
参考書	随時、授業中に紹介する。						

科目区分	現代の教養系列／教養系列						
科目名	食物と身体						
担当教員	橋本 沙幸					科目ナンバ-	251140
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	金曜4	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	食物に含まれる栄養素の特徴や代謝の解説と、ライフステージに起こる身体の変化や栄養上の注意点および運動やストレス時の栄養上の対応について考える。						
授業の概要	はじめに食物に含まれる栄養素について基本的な特徴や代謝について説明し、次に妊娠期から高齢期までのライフステージ上で起こる身体の変化や注意すべき疾患、それに対する栄養面からの予防方法や健康増進につながる知識を踏まえた上で、運動時の栄養摂取について、ストレスを感じる際の身体の変化や対応策について解説する。最後に食生活の変化に応じた食品選択のあり方について学び、現代社会における健康増進について考える。						
到達目標	(1) 食物に含まれる栄養素の特徴について学び、栄養学の基礎的な知識や概念を理解する【知識・理解】 (2) ライフステージに起こる身体の変化について学び、栄養面からの対処方法について科学的に正確な情報を求め、考え、生涯にわたり健康な身体の保持増進を図る姿勢を身につけることができる【態度・志向性】						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. バランスの良い食事とは？エネルギー産生栄養素の消化と吸収</li> <li>2. ビタミンとミネラルについて</li> <li>3. 妊娠期の身体の変化と食物</li> <li>4. 授乳期の身体の変化と食物</li> <li>5. 乳児期の栄養</li> <li>6. 幼児期の身体の特徴と食事内容</li> <li>7. 学童期の栄養摂取のあり方</li> <li>8. 思春期の身体の変化と栄養上の注意点</li> <li>9. 成人期（青年期と壮年期）の生活の変化と栄養上の問題点</li> <li>10. 成人期（中年期）の疾患と食生活のあり方</li> <li>11. 更年期のホルモンバランスの変化と栄養</li> <li>12. 高齢期の身体と食事形態の変化</li> <li>13. 運動時の栄養摂取について</li> <li>14. ストレスが身体に及ぼす影響と栄養面での対応</li> <li>15. 食生活の変化と食品選択、全体のまとめ</li> </ol>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	新聞（インターネット上の報道も含む）などで報道される、食品の安全や健康への影響などについての記事に良く目を通して、必要であれば記録しておく。学習時間：週1時間程度 授業で配布した資料を用いて復習を行う。（学習時間：週3時間程度） 必要に応じて、講義内容に関連した調査や自分の意見についてメモなどの提出を求める事がある。						
授業方法	資料等を配付して講義を行う。 資料に記載された内容の説明を中心に授業を進めるが、隣同士でのディスカッションを行ったり、取り上げた内容について自分の意見を求める事がある。						
評価基準と評価方法	授業態度、積極性（60%） 授業への積極的な参加、ディスカッションへの参加、意見を求めた際の発言について評価する。到達目標(2)に関する理解度の確認。 課題レポート提出（40%） 提出期限の順守およびレポート内容について評価する。到達目標(1)(2)に関する理解度の確認。						
履修上の注意	参考図書としては、食品科学や栄養学の基礎的な解説書や教科書を読むことを薦める。厚生労働省、農林水産省、内閣府食品安全委員会等のホームページも参考になる場合がある。 20分以上の遅刻・不在は欠席扱いとする。 出席回数が開講日数の3分の2に満たない場合は、原則単位認定を行わない。 居眠り、私語、携帯電話の使用、無断退出については受講態度より減点する。						
教科書	取り上げる問題が多岐に渡るので、教科書(書籍)は特に指定しない。参考となる情報源は適宜授業の資料中で紹介する。						
参考書	「栄養科学ファウンデーションシリーズ2 応用栄養学 第4版」、江上いすず・多賀昌樹 編著編、朝倉書店、2025年、ISBN 978-4-254-61672-9 「栄養科学イラストレイテッド 基礎栄養学 第5版」、田地陽一 編、洋土社、2024年、ISBN 978-4-7581-1377-9						

科目区分	現代の教養系列／教養系列						
科目名	神経・生理心理学						
担当教員	中尾 美月					科目ナンバ-	P12060
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	金曜2	配当学年	2～3	単位数	2.0
授業のテーマ	ココロとカラダの関係を科学する。						
授業の概要	心はどこにあるのだろうか。それは脳だろうか。緊張すると心臓がドキドキしたり、胃が痛くなったりするということは、心臓や胃にあるのだろうか。それとも身体のだこにも存在しないのだろうか。この授業では、心と身体の関係について、古典的ともいえる知見から、最新の脳科学研究の成果に至るまで、数多くの興味深いトピックを紹介する。さらに、心のありかについて自らの考えをまとめることで、人に対するより深い理解と関心が持てるようになることを目指す。						
到達目標	①脳神経系の構造及び機能について論じることができる。(知識・理解) ②記憶、感情等の生理学的反応の機序について論じることができる。(知識・理解) ③高次脳機能障害の概要について論じることができる。(知識・理解) ④心と身体の関係を調べる神経・生理学的な方法について論じることができる。(知識・理解) ⑤心のありかについて自らの考えをまとめることで、人に対するより深い理解と関心が持てるようになる。(態度・志向性)						
授業計画	第1回 神経・生理心理学とは 第2回 脳 あなたは右脳タイプ？左脳タイプ？ 第3回 視覚 なぜものが見えるのか 第4回 顔認識 魅力的な顔とは 第5回 知覚の統合 青い食べ物でダイエット？ 第6回 記憶1 記憶の亡霊 第7回 記憶2 脳の中の宇宙 第8回 知能 脳トレで頭が良くなる？ 第9回 発達 赤ちゃんはワンダーランド 第10回 感情 泣くから悲しい？ 第11回 ストレス 癒しの脳科学 第12回 恋愛 愛は麻薬？それとも絆？ 第13回 人間らしさ 脳の中のもうひとりの私 第14回 まとめ 心はどこにある？ 第15回 レポート解説						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	授業前学習：各回授業の最後に次回授業のキーワードを示すので、文献やインターネットを使って調べておく。(学習時間：60分) 授業後学習：授業で学んだ内容について、リアクションペーパーを作成する。(学習時間：120分)						
授業方法	講義：基本的にパワーポイントと配付プリントで授業を進める。授業後、1週間以内にリアクションペーパー(授業内容についてのコメント・質問など)を作成し、manabaを使って提出することを求める。リアクションペーパーに書かれた内容については、その一部を翌週の授業で紹介・解説する。						
評価基準と評価方法	リアクションペーパー40%：各回提出のリアクションペーパー(講義内容についてのコメント・質問など)。到達目標①②③④に関する到達度の確認。 レポート60%：第14回ではリアクションペーパーではなくレポートの提出を求める。到達目標⑤に関する到達度の確認。						
履修上の注意	基本的に、授業を聞きたい者にとって邪魔になる行為を禁止する。 私語は厳禁。私語で周りに迷惑をかける者には退場を命じることもある。						
教科書	教科書は使用しない。毎週プリントを配付する。						
参考書	参考文献は必要に応じて適宜紹介する。						

科目区分	現代の教養系列／教養系列						
科目名	心理学概論						
担当教員	待田 昌二					科目ナンバ-	Z51110
学期	前期／1st semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	心理学の基礎知識を習得し、心を科学的に捉える姿勢を身につける。						
授業の概要	心理学は心と行動についての学問である。しかし、人間の心や行動についての考察は様々な学問分野で行われている。心理学の学問的特徴を知るとともに、心理学が明らかにしてきた心と行動に関する知識について講義を行う。 現代の心理学は脳が心を生み出していると考えている。このため、脳の働きという側面から心と行動について考えるので、生物学的な内容も含む。 心理学には、生理心理学、学習心理学、社会心理学など様々な学問分野があり、それぞれ人間の広範な心の働きと行動に対応しているだけでなく、異なる観点から人間について考えている。今後の発展的な学習に繋げることができるよう、そのような多様な観点についても学ぶ。						
到達目標	(1) 心理学を構成する主な領域の基礎知識を習得している。【知識・理解】 (2) 自身の心と行動について心理学的な観点から考えることができる【態度・志向性】						
授業計画	第2回から第15回までの授業回で [PC必携] 1. 「心」とは何か、心理学はどのような学問か 2. 意識 3. 感覚 4. 知覚 5. 学習 6. 記憶 7. 認知 8. 動機づけ 9. 感情 10. 知能 11. 性格 12. 社会における個人と達成度確認試験 13. 心の発達 14. 社会と自己 15. 心の異常 期末試験						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習： 松蔭manabaで授業前に示す課題を行う（学習時間1時間） 授業後学習： 松蔭manabaで授業後に示す課題を行うとともに授業内容を試験に結実させるよう復習し、身近な問題に結び付けて考える（学習時間3時間）						
授業方法	主に講義形式だが、manabaからの課題提出などを授業中に行う。<BYOD対象科目>						
評価基準と評価方法	授業中及び前後の学習課題の評価50%、試験50% 授業中及び前後の学習課題の評価：授業前後の提出課題と授業中の提出課題の内容・記述の的確さを評価する。 到達目標（1）と（2）に関する到達度の確認。 試験：到達目標（1）と（2）の到達度の確認。						
履修上の注意	大幅な遅刻は出席と認めない。スマートフォンの電源オフなど授業マナーを守ること。 松蔭manabaで示す授業前学習、授業後学習を行うこと。						
教科書	なし。適宜、松蔭manabaからプリントを配信する。						
参考書	松蔭manabaにおいて紹介する。						

科目区分	現代の教養系列／教養系列						
科目名	心理学概論						
担当教員	待田 昌二					科目ナンバー	Z51110
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	金曜2	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	心理学の基礎知識を習得し、心を科学的に捉える姿勢を身につける。						
授業の概要	心理学は心と行動についての学問である。しかし、人間の心や行動についての考察は様々な学問分野で行われている。心理学の学問的特徴を知るとともに、心理学が明らかにしてきた心と行動に関する知識について講義を行う。 現代の心理学は脳が心を生み出していると考えている。このため、脳の働きという側面から心と行動について考えるので、生物学的な内容も含む。 心理学には、生理心理学、学習心理学、社会心理学など様々な学問分野があり、それぞれ人間の広範な心の働きと行動に対応しているだけでなく、異なる観点から人間について考えている。今後の発展的な学習に繋げることができるよう、そのような多様な観点についても学ぶ。						
到達目標	(1) 心理学を構成する主な領域の基礎知識を習得している。【知識・理解】 (2) 自身の心と行動について心理学的な観点から考えることができる【態度・志向性】						
授業計画	第2回から第15回までの授業回で [PC必携] 1. 「心」とは何か、心理学はどのような学問か 2. 意識 3. 感覚 4. 知覚 5. 学習 6. 記憶 7. 認知 8. 動機づけ 9. 感情 10. 知能 11. 性格 12. 社会における個人と達成度確認試験 13. 心の発達 14. 社会と自己 15. 心の異常 期末試験						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習： 松蔭manabaで授業前に示す課題を行う（学習時間1時間） 授業後学習： 松蔭manabaで授業後に示す課題を行うとともに授業内容を試験に結実させるよう復習し、身近な問題に結び付けて考える（学習時間3時間）						
授業方法	主に講義形式だが、manabaからの課題提出などを授業中に行う。<BYOD対象科目>						
評価基準と評価方法	授業中及び前後の学習課題の評価50%、試験50% 授業中及び前後の学習課題の評価：授業前後の提出課題と授業中の提出課題の内容・記述の的確さを評価する。 到達目標（1）と（2）に関する到達度の確認。 試験：到達目標（1）と（2）の到達度の確認。						
履修上の注意	大幅な遅刻は出席と認めない。スマートフォンの電源オフなど授業マナーを守ること。 松蔭manabaで示す授業前学習、授業後学習を行うこと。						
教科書	なし。適宜、松蔭manabaからプリントを配信する。						
参考書	松蔭manabaにおいて紹介する。						

科目区分	現代の教養系列／教養系列						
科目名	ジェンダー論演習						
担当教員	松並 知子					科目ナンバ-	Z11140
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	火曜4	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	主にメディアの中にある具体的な事例を通して、ジェンダーの理論や問題を分析する。その際、ディスカッションやレポート作成などを行うことにより、自分自身の中のジェンダー意識を再考する。						
授業の概要	デートDVや依存症、また母娘問題などの身近な問題を、漫画やエッセイを通して学習する。また、固定観念やイメージがいかにジェンダー意識に影響を与えているのかを考察する。さらに、ジェンダーに関する問題を自ら調べ意見を述べることによって、理解を深め、ディスカッションなどを通し、多様な意見や価値観に触れることで、考えを深める。						
到達目標	(1) ジェンダーやセクシュアリティに関する概念や問題と日本社会の現状を理解している。【知識・理解】 (2) ジェンダーに関する問題や社会状況などを理解し、発表することができる。【汎用的技能】 (3) 授業で扱った事柄を身近な問題として捉え、問題の解決に向けて真剣に考え、行動することができる。【態度・志向性】						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション：授業内容や授業計画、授業方法</li> <li>2. 漫画『だめんず・うお～か～』に見るジェンダー (1) 自己愛とDVの関連</li> <li>3. 漫画『だめんず・うお～か～』に見るジェンダー (2) 女性性・男性性とDV</li> <li>4. 漫画『だめんず・うお～か～』に見るジェンダー (3) 恋愛依存症とデートDV</li> <li>5. 視聴覚教材を見て、デートDVについて考える</li> <li>6. 作家、中村うさぎに見るジェンダー (1) 中村うさぎが抱える心理的問題</li> <li>7. 作家、中村うさぎに見るジェンダー (2) 依存症とその要因</li> <li>8. 依存症とその生起要因について考える</li> <li>9. プリンセス・ストーリーに見るジェンダー (1)：ディズニー映画「シンデレラ」</li> <li>10. プリンセス・ストーリーに見るジェンダー (2)：映画「エバー・アフター」</li> <li>11. プリンセス・ストーリーに見るジェンダー (3)：プリンセス・ストーリーに込められたメッセージ</li> <li>12. 漫画『イグアナの娘』に見るジェンダー (1) 漫画に見る母娘関係の分析</li> <li>13. 漫画『イグアナの娘』に見るジェンダー (2) 母と娘の間に生じる葛藤</li> <li>14. 漫画『イグアナの娘』に見るジェンダー (3) 母を支える娘たち</li> <li>15. まとめ、レポート作成</li> </ol>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	ジェンダーをキーワードに日頃からニュースなどに興味を持ち、情報を得ていること。また参考文献などを使って下調べをしておくこと（学習時間：2時間）。 授業中に配布した資料やプリントを使って復習を行うこと。また、授業内で紹介した参考文献などを活用して理解を深めること（学習時間：2時間）。						
授業方法	質疑応答やレポート作成、視聴覚教材の視聴などの課題をとり入れることにより、自分自身で考え、表現する機会を持つ。グループ・ディスカッションや心理テストなども行う。また、毎回、授業の後にレポートを提出してもらい、評価の対象とする。さらに、発言した場合は平常点が加点される。双方向型の授業なので、積極的な発言が奨励される。						
評価基準と評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業の後に提出するレポート 60%</li> <li>・授業への積極的参加態度（発言・ディスカッション） 40%</li> </ul>						
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業初回に授業内容と授業計画を説明するので、できる限り、出席すること。</li> <li>・私語は厳禁、携帯電話は鞆にしまうなど、ルールを守る人に限る。</li> </ul> <p>★5回以上欠席した場合は評価の対象外とする。</p>						
教科書	なし						
参考書	「ジェンダーの心理学ハンドブック」青野篤子・赤澤淳子・松並知子、ナカニシヤ出版、2008 「アクティブラーニングで学ぶジェンダー～現代を生きるための12の実践」青野篤子、ミネルヴァ書房、2016 「女性の生きづらさとジェンダー～「片隅」の言葉と向き合う心理学」心理科学研究会ジェンダー部会、有斐閣、2021						

科目区分	現代の教養系列／教養系列												
科目名	ジェンダー論入門												
担当教員	土肥 伊都子					科目ナンバー	Z11130						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	1～2	単位数	2.0						
授業のテーマ	人間を女と男に＜分類＞する実践に注目し、それを支える社会的ルールであるジェンダーについて学び、考える。												
授業の概要	ジェンダーから派生した性別役割分業や、性差に関する科学的知識や、性別に基づく差別や偏見や暴力などの問題を取り上げ、それらを理解するための基本的な知識を身につける。												
到達目標	1. ジェンダーに関する概念や問題を理解するための知識を身につけることができる【知識・理解】 2. 人々の心の中および社会の中にある固定観念、差別、偏見などに気づき、考察することができる【態度・志向性】 3. ジェンダーに関する心理的・社会的問題についての自らの意見をまとめ、表明することができる【汎用的技能】												
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション ～ジェンダーとは何か</li> <li>2. 性分化とインターセックス</li> <li>3. トランスジェンダー</li> <li>4. 同性愛と異性愛</li> <li>5. 性差と性役割</li> <li>6. 生物学的性差</li> <li>7. メディアと教育</li> <li>8. 恋愛と性行動</li> <li>9. 性暴力（その1）</li> <li>10. 性暴力（その2）</li> <li>11. 性別職務分離と統計的差別</li> <li>12. ワークライフバランス</li> <li>13. 母性愛神話、リプロダクティブ・ヘルス&amp;ライツ</li> <li>14. 個人発表</li> <li>15. まとめのレポート</li> </ol>												
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業の予習として教科書を読んでおき、授業内容をある程度理解しておく（学習時間 2時間）。授業中に紹介した著書を読んだり、ニュースや新聞などの情報と授業内容を関連づけて理解する（学習時間 2時間）。												
授業方法	教科書に沿って講義形式で行う。 毎回の授業終了後、学んだことを平常レポートにまとめる。 個人発表の授業日に、自分の意見を受講生に向けて表明する。												
評価基準と評価方法	<table border="0"> <tr> <td>毎回の平常レポート</td> <td>30%</td> </tr> <tr> <td>個人発表</td> <td>30%</td> </tr> <tr> <td>まとめのレポート</td> <td>40%</td> </tr> </table>							毎回の平常レポート	30%	個人発表	30%	まとめのレポート	40%
毎回の平常レポート	30%												
個人発表	30%												
まとめのレポート	40%												
履修上の注意	毎回必ず教科書を持参すること												
教科書	加藤秀一 「はじめてのジェンダー論」 有斐閣ストゥディア 2017年 ISBN 978-4-641-15039-3												
参考書													

科目区分	現代の教養系列／教養系列						
科目名	女性と法						
担当教員	佐藤 祥徳					科目ナンバ-	Z11220
学期	前期／1st semester	曜日・時限	火曜2	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	現代社会を生きる女性として知っておくことが望ましい法制度を概観する。						
授業の概要	現代社会では、民事事件、刑事事件を問わず、女性が当事者となる紛争やトラブルが日夜発生している。そして、法治国家である日本においては、女性としての権利を実現し、法的利益を守ることを目的とした法律が多数存在する。本授業では、女性が社会生活を送るうえで遭遇し得る様々な場面を取り上げ、これらに関するわが国の法制度を紹介し、様々な法律に対する理解を深めてもらうとともに、社会で活躍する女性になるための「心得」を提供することを目指す。						
到達目標	(1) 社会生活上、女性が当事者となる紛争やトラブルにどのようなものがあるかを理解する【知識・理解】 (2) 上記(1)に関連する法制度(法律)の内容を理解し、他者にわかりやすく説明することができる【汎用的技能】 (3) 上記(1)及び(2)を前提に、これらの紛争やトラブルを未然に回避するためにはどのように行動すればよいかを適切に判断することができる【態度・志向性】						
授業計画	第1回 ガイダンス・法律を学ぶにあたって 第2回 インターネットをめぐる法律問題①(SNS利用時のトラブル) 第3回 インターネットをめぐる法律問題②(著作権侵害、海賊版コンテンツ等) 第4回 男女関係をめぐる法律問題(交際相手からの暴力、ストーカー行為、リベンジポルノ等) 第5回 女性と犯罪被害①(いじめ、性犯罪、盗撮・痴漢、援助交際等) 第6回 女性と犯罪被害②(警察捜査と刑事裁判に関する基礎知識、不法行為責任と民事裁判に関する基礎知識) 第7回 講義前半のまとめ・中間試験 第8回 職場における法律問題①(労働者の諸権利) 第9回 職場における法律問題②(パワーハラスメント、セクシャルハラスメント等) 第10回 女性と社会経済活動(契約責任と会社法制に関する基礎知識) 第11回 女性と貧困(母子家庭を取り巻く諸問題、多重債務、消費者被害) 第12回 家族をめぐる法律問題①(結婚と離婚、不貞行為、配偶者暴力(DV)等) 第13回 家族をめぐる法律問題②(親権、面会交流、養育費、認知等) 第14回 家族をめぐる法律問題③(遺言、相続) 第15回 講義後半のまとめ・期末試験						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	授業前準備学習:教科書の指定された範囲を予習し、各回授業で取り上げる法律やそれが適用される場面についてのイメージを掴み、わからないことや疑問点があれば拾い出しておく。<2時間> 授業後学習:授業で取り上げた内容(紛争・トラブルの実態、関連する法律の趣旨・目的、内容等)を復習し、理解を深める。また、新聞記事、テレビ報道、スマートフォンのニュースアプリ等で関連するトピックを見つけた場合は、積極的に情報を収集し、多様な意見に触れるよう努める。<2時間>						
授業方法	講義形式						
評価基準と評価方法	平常点(出席点)10%、中間試験35%、期末試験55% 中間試験:授業で取り上げた法制度に対する理解度(到達目標(1)(2))及び運用力(到達目標(3))を評価する。 期末試験:中間試験と同様の評価方法によるほか、女性が直面する具体的な社会問題に関して、問題の所在を見出す力(到達目標(1))及び法制度を念頭に置いた具体的な解決方法を考察する力(到達目標(2)(3))を評価する。 課題に対するフィードバックの方法:中間試験及び期末試験の採点結果を松陰manabaで講評する。						
履修上の注意	法律に関する基礎知識の有無は問わない。 平易な講義に努めるので、安心して履修してほしい。						
教科書	『おとめ六法』上谷さくら・岸本学著、(株)KADOKAWA、ISBN978-4-04-604779-3						
参考書	なし						

科目区分	現代の教養系列／教養系列						
科目名	青年期の臨床心理学						
担当教員	黒崎 優美					科目ナンバ-	P32070
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	2～3	単位数	2.0
授業のテーマ	青年期の諸課題に対する臨床心理学的理解						
授業の概要	青年期に関連の深いさまざまな課題について、臨床心理学的接近法に基づき考え、理解を深めます。授業内のワークや課題への取り組みを通して、自らの考えや理解した内容を言語化し、その内容を共有します。						
到達目標	(1)青年期の諸課題について、臨床心理学的な観点から理解し、他者に伝えることができる。【知識・理解】 (2)授業を通して得た知識や理解を、自分自身や身近な出来事や社会現象の理解に応用し、それについて他者に伝えることができる。【汎用的技能】 (3)臨床心理学への興味・関心を深め、これから学んでいきたいことを明確にし他者に伝えることができる。【態度・志向性】						
授業計画	第1回 導入 授業の進め方、生涯発達と青年期 第2回 青年期の人間関係(1) 親子関係 [PC必携] 第3回 青年期の人間関係(2) 友人・恋愛関係 [PC必携] 第4回 青年期の就活・就労(1) 若者の働き方 [PC必携] 第5回 青年期の就活・就労(2) 働くことと連結 [PC必携] 第6回 青年期とひきこもり(1) ひきこもりの現状と課題 [PC必携] 第7回 青年期とひきこもり(2) ひきこもりの社会的解決 [PC必携] 第8回 青年期の非行・犯罪(1) 非行・犯罪の現状と課題 [PC必携] 第9回 青年期の非行・犯罪(2) 相互作用からみた精神鑑定、裁判員制度 [PC必携] 第10回 青年期の精神疾患と心理的支援(1) 心的状態としての“統合失調” [PC必携] 第11回 青年期の精神疾患と心理的支援(2) “うつ”と“新型うつ” [PC必携] 第12回 青年期の精神疾患と心理的支援(3) 摂食障害、醜形恐怖 [PC必携] 第13回 課題発表または課題レポート公開 「青年期と心理」 第14回 課題へのコメント、質疑応答 第15回 まとめと試験						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	授業前学習：文献購読、配付資料(松蔭manabaコンテンツ)確認 <2時間> 授業後学習：課題提出(松蔭manabaレポート等)、まとめプリント作成 <2時間>						
授業方法	講義、演習(ワーク、プレゼンテーション、ディスカッション) <BYOD対象科目>						
評価基準と評価方法	平常点(40%)、試験(30%)、課題(30%)で評価をおこなう。ただし、試験と課題はどちらも必須。 ・平常点(授業内のワーク、授業レポート、その他授業への参加・貢献)。到達目標(1)(2)(3)に関する到達度の確認 ・試験(まとめプリント持ち込み可)。到達目標(1)に関する到達度の確認 ・課題(レポートもしくは発表)。到達目標(2)(3)に関する到達度の確認						
履修上の注意	主体的に考え言語化する努力をしてください。 配付資料はmanabaコンテンツでも共有します。						
教科書	なし。毎回資料を配布します。						
参考書	適宜紹介します。						

科目区分	現代の教養系列／教養系列						
科目名	ダイバーシティ演習						
担当教員	稲見 直子					科目ナンバ-	Z11160
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	火曜2	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	本学の教育目標の一つである「多様性の理解と受容」について考え、人種、国籍、生活習慣、肌の色、宗教、信条などが異なる人々を価値ある存在として理解し、共に向き合う態度を養う。						
授業の概要	この授業では、民族・文化の多様性を学ぶとともに、民族や文化、特にマイノリティに対する偏見・差別の現状、法的・政策的対応などを自ら調べて発表し、社会的理解を進めともに生きていく方法や施策を議論を通して考えていく。						
到達目標	(1) 民族・文化の多様性に関する概念や問題と日本社会の現状を把握することができる。【知識・理解】 (2) 民族・文化に関する法や政策の問題点を調べて発表することができる。【汎用的能力】 (3) 民族・文化の多様性を身近な問題として考え、共に向き合う態度と社会的包含を求める姿勢を身につけることができる。【態度・志向性】						
授業計画	第1回 マイノリティ問題を考える 第2回 自分の問題関心を考える ※PC必携 第3回 マイノリティ差別の現状を調べる(1) 統計データの検索 ※PC必携 第4回 マイノリティ差別の現状を調べる(2) 文献資料の検索 ※PC必携 第5回 マイノリティ差別の現状を調べる(3) 内容整理 ※PC必携 第6回 中間報告の準備 ※PC必携 第7回 中間報告と質疑応答(1) 第8回 中間報告と質疑応答(2) 第9回 共生のための方策を考える(1) 法・政策の調査 ※PC必携 第10回 共生のための方策を考える(2) 法・政策の検討 ※PC必携 第11回 共生のための方策を考える(3) 内容整理 ※PC必携 第12回 最終報告準備 ※PC必携 第13回 最終報告(1) 第14回 最終報告(2) 第15回 まとめ						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	授業前準備学習：各回の授業で扱うテーマに関する新聞記事を探して読み、下調べをする。<2時間> 授業後学習：各回の課題についてグループで集まって仕上げる。<2時間>						
授業方法	グループワークを中心とした演習形式で進め、各グループでテーマに沿った情報やデータを収集してまとめ、報告する。<BYOD対象科目>						
評価基準と評価方法	・授業への参加態度(15%)：授業に主体的・協働的に取り組んでいるかなどを総合的に評価。到達目標(3)に対応。 ・各種レポート(30%)：課題に応じた内容で、分析的かつ論理的に書かれているかを総合的に評価。到達目標(1)の確認。 ・中間報告(25%)：マイノリティ差別の現状をデータに基づいて読み解き、報告できているかを評価。到達目標(1)(2)の確認。 ・最終報告(30%)：マイノリティへの政策やその課題を調べ、共生のための方策を提案できているかを評価。到達目標(1)(2)の確認。						
履修上の注意	・出席回数が全体の3分の2に満たない者は原則単位認定は行わない。 ・20分以上の遅刻は欠席とみなし、遅刻3回で欠席1回とする。 ・「ダイバーシティ入門」を履修していることが望ましい。						
教科書	授業内容に応じて、適宜レジメと資料を配布する。						
参考書	西原和久・杉本学編, 2021, 『マイノリティ問題から考える社会学・入門——差別をこえるために』有斐閣.						

科目区分	現代の教養系列／教養系列						
科目名	ダイバーシティ入門						
担当教員	松並 知子					科目ナンバ-	Z11150
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	ダイバーシティの実現とは、女性、外国人、障がい者、シニア、LGBTsなど多様な人材が能力を十分に発揮し、活躍できる環境をつくることである。この授業では、ダイバーシティに関する概念や理論を理解し、その実現について考察する						
授業の概要	ダイバーシティに関する理論や歴史的背景、その重要性について理解する。またその実現を阻む偏見や差別が生じるメカニズムについて考察する。さらに、社会状況や具体例、SOGIについて学び、ダイバーシティを実現するための方法や施策について考える。						
到達目標	(1) ダイバーシティの概念や理論、またダイバーシティが重要性を持つようになった歴史的背景を理解できる。【知識・理解】 (2) 多様な人々を価値ある存在として認め、すべての人々の社会的包含とエンパワーメントを求める姿勢を身につけている。【態度・志向性】						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>オリエンテーション：授業内容と授業計画、ダイバーシティとは？</li> <li>ダイバーシティが重要なのはなぜか？</li> <li>血液型占いはなぜ信じられているのか？ (1) 対人認知とステレオタイプ</li> <li>血液型占いはなぜ信じられているのか？ (2) ステレオタイプと偏見・差別</li> <li>偏見や差別はどこから生じるのか？</li> <li>日本社会におけるダイバーシティ (1) 国籍や人種に関する多様性</li> <li>日本社会におけるダイバーシティ (2) 女性・母親をめぐる問題</li> <li>日本社会におけるダイバーシティ (3) 障がいに関する問題</li> <li>SOGI：ジェンダー・アイデンティティとセクシュアル・オリエンテーション <ol style="list-style-type: none"> <li>性別とは何か？</li> </ol> </li> <li>SOGI：ジェンダー・アイデンティティとセクシュアル・オリエンテーション <ol style="list-style-type: none"> <li>性自認</li> </ol> </li> <li>SOGI：ジェンダー・アイデンティティとセクシュアル・オリエンテーション <ol style="list-style-type: none"> <li>性的指向</li> </ol> </li> <li>なぜ日本のダイバーシティは進まないのか？</li> <li>日本でダイバーシティを実現するために</li> <li>日常生活におけるカウンセリング的対応</li> <li>まとめと復習テスト</li> </ol>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	ダイバーシティをキーワードに日頃からニュースなどに興味を持ち、情報を得ていること。また参考文献などを使って下調べをしておくこと（学習時間：2時間）。授業中に配布した資料やプリントを使って復習を行うこと。また、授業内で紹介した参考文献などを活用して理解を深めること（学習時間：2時間）。						
授業方法	基本的に講義形式で進めるが、グループ・ディスカッションやレポートなどの課題をとり入れることにより、自分自身で考える機会を持つ。毎回、授業の最後に、レポートの提出やテストなどの課題を課す。また授業中に意見を求めることも多いので、大勢の前でも発言できる勇気が求められる。						
評価基準と評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>毎回の授業で提出するレポートと小テスト 50%</li> <li>授業態度・参加度（発言、ディスカッション参加態度） 20%</li> <li>最終授業で実施する復習テストとレポート 30%</li> </ul> <p>★5回以上欠席した場合は評価の対象外とする。</p>						
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> <li>大勢の前でも発言できる勇気がある人に限る。</li> <li>授業初めに授業内容と授業計画を説明するので、できる限り、出席すること。</li> <li>私語は厳禁、携帯電話は鞆にしまうなど、ルールを守る人に限る。</li> <li>成績は、数回の小テストや復習テスト、レポートを通じて評価するので、常に予習・復習を怠らず、高得点をとれるよう努力すること。</li> <li>出席点は考慮しないので、出席していれば合格できるということはない。熱心で積極的な受講態度が求められる。</li> </ul>						
教科書	なし						
参考書	青野篤子・田口久美子・沼田あや子・五十嵐元子編著『女性の生きづらさとジェンダー～「片隅」の言葉と向き合う心理学～』有斐閣、2021 土井伊都子編著「学びを人生へつなげる家族心理学」保育出版、2017 水無田気流「多様な社会はなぜ難しいか～日本の「ダイバーシティ進化論」」日本経済出版、2021						

参考書	
-----	--

科目区分	現代の教養系列／教養系列						
科目名	知覚・認知心理学						
担当教員	中尾 美月					科目ナンバ-	P12070
学期	前期／1st semester	曜日・時限	金曜2	配当学年	2～3	単位数	2.0
授業のテーマ	人の知覚・認知の特徴やしぐみについて理解する						
授業の概要	知覚と認知はどちらも「知る」機能に関わっている。人は「こころ」を通して外界を知覚し、対象を、世界を、そして自分自身を認知している。この授業では、知覚や認知の基礎的なメカニズムを学ぶことによって「こころ」の不思議さを実感し、人に対するより深い理解と関心を持つようになることを目指す。						
到達目標	①人の感覚・知覚等の機序及びその障害について論じることができる。(知識・理解) ②人の認知・思考等の機序及びその障害について論じることができる。(知識・理解) ③人の知覚・認知について自らの考えをまとめることで、自分自身や他者に対するより深い理解と関心が得られる。(態度・志向性)						
授業計画	第1回 知覚・認知心理学とは 第2回 知覚1 知覚の不思議 第3回 知覚2 色の不思議 第4回 知覚3 なぜ色が見えるのか 第5回 知覚4 奥行き知覚 第6回 記憶1 自由再生実験からわかること 第7回 記憶2 感覚記憶と注意 第8回 記憶3 短期記憶とワーキングメモリ 第9回 記憶4 長期記憶 第10回 問題解決 第11回 知覚・認知の障害1 ストレスと認知 第12回 知覚・認知の障害2 うつ病と認知 第13回 知覚・認知の障害3 認知療法 第14回 まとめ 第15回 レポート解説						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	授業前学習：各回授業の最後に次回授業のキーワードを示すので、文献やインターネットを使って調べておく。(学習時間：60分) 授業後学習：授業で学んだ内容について、リアクションペーパーを作成する。(学習時間：120分)						
授業方法	講義：基本的にパワーポイントと配付プリントで授業を進める。適宜、実習形式による体験学習を取り入れる。授業後、1週間以内にリアクションペーパー(授業内容についてのコメント・質問など)を作成し、manabaを使って提出することを求める。リアクションペーパーに書かれた内容については、その一部を翌週の授業で紹介・解説する。						
評価基準と評価方法	リアクションペーパー40%：各回提出のリアクションペーパー(講義内容についてのコメント・質問など)。到達目標①②に関する到達度の確認。 レポート60%：第14回ではリアクションペーパーではなくレポートの提出を求める。到達目標③に関する到達度の確認。						
履修上の注意	基本的に、授業を聞きたい者にとって邪魔になる行為を禁止する。 私語は厳禁。私語で周りに迷惑をかける者には退場を命じることもある。						
教科書	教科書は使用しない。毎週プリントを配付する。						
参考書	参考文献は必要に応じて適宜紹介する。						

科目区分	現代の教養系列／教養系列						
科目名	地球環境A (地球環境と人間) / 地球環境と人間						
担当教員	坂元 仁					科目ナンバ-	Z5121A
学期	前期 / 1st semester	曜日・時限	火曜1	配当学年	1~2	単位数	2.0
授業のテーマ	地球史、生命史、人類史を辿り、人間とそれを取り巻く環境と相互作用について多面的に自然観および環境問題について考える。						
授業の概要	地球温暖化、酸性雨、オゾン層破壊、病原性微生物・ウイルスなど、人類のみならず、生物全体が生存の危機に曝されている。それらを理解し、考えるための基礎事項（化学、生物学、物理学、地学）についてまず講義し、個別の大きな環境問題、過去と現在の環境問題の取り組みを基に、今後の環境と生命の行く末、人間のなすべきことなどについて考察する。						
到達目標	①生命の歴史、人類の歴史、科学技術史を辿って地球環境と人間の関係の変遷を様々な切り口で学び知り、深い人間理解につなげる。【知識・理解】 ②“自然の中に人間がいる”という自然観・人間観に立ち返り、現代社会が抱える諸問題・危機に対して広い視点から俯瞰して、プラス面・マイナス面を分析でき、自分の意見を論理的に記述できる。【態度・志向性】						
授業計画	第1回 講義のガイダンスとノートの取り方について 第2回 生命の誕生と地球環境—地球の誕生、最初の生命とは、シアノバクテリアと酸素 第3回 生命進化の大爆発—細胞、遺伝子、真核生物の誕生、カンブリア期の進化爆発 第4回 地球環境と大量絶滅の謎—5回繰り返された大量絶滅、人類による第6の絶滅 第5回 人類の誕生と進化—ホモ・サピエンスとネアンデルタール人、道具・言語・意識の芽生えの謎 第6回 農耕と家畜化—農耕はなぜはじまったのか、初期の栽培植物と家畜について 第7回 道具：鉄器から産業革命を経て—古代の物語のなかの環境破壊、自然科学の発達 第8回 医学の発達—医学の歴史、なぜ病気は起こるのか？ 第9回 地球環境と人口・食糧問題—世界人口と高齢化社会、生態系から考える 第10回 地球温暖化—人類活動要因説と自然環境要因説 第11回 地球資源の枯渇とエネルギー問題—再生可能エネルギーと次世代資源の探索 第12回 環境汚染と環境破壊—公害（水俣病と原発事故） 第13回 水資源と自然環境浄化への取り組み—美味しい水、水辺の生態系を育む 第14回 地球規模化する感染症—感染症の歴史、インフルエンザ、多剤耐性菌の出現 第15回 地球環境と人類の未来—エコロジー、持続可能な社会に向けて						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	講義を通してノートを取る能力（キーワードをメモする、要約する）、自分でもさらに深く情報を精査して調査する能力を養っていくこと（学習時間：2時間）。普段のニュース（新聞、テレビ、インターネット）、書籍、国内外の公文書などの統計データから様々な問題に注意を向け、好奇心を持って調べ、批評的に考えてみること（学習時間：2時間）。						
授業方法	講義：プロジェクターを用いた視聴覚教材を用いて講義を進める。講義内容に関するテキストとして部分的に穴埋め式にしたプリント（松蔭manaba経由）を用い、記入を通して理解を深める。毎回、感想または、問題提起に対する意見の提示、講義内容の模式図化などの小レポートを実施する（松蔭manaba経由）。						
評価基準と評価方法	課題レポート50%（選択した課題に対して背景説明、問題提起、その問題への対策案に関する論理的記述を評価する） 平常点50%（受講態度25%、小レポート25% 授業毎にリアクションペーパー（小レポート）を課し、評価する）						
履修上の注意	私語厳禁。						
教科書	講義の配布資料をテキストとする（松蔭Manabaで提示する予定）。						
参考書	クリストファー・ロイド（著）「137億年の物語 宇宙が始まってから今日までの全歴史」（文藝春秋）2012年 ISBN 9784163742007 西本昌司（著）「改訂新版 地球のはじまりからダイジェスト：地球のしくみと生命進化の46億年」（合同出版株式会社）2015年 ISBN 9784772612524 ヘンリー・ジー（著）；竹内薫（訳）「超圧縮地球生物全史」（ダイヤモンド社）2022年 ISBN-10:4478114277 ジャレド・ダイヤモンド（著）「銃・病原菌・鉄——1万3000年にわたる人類史の謎（上・下）」（草思社文庫、2012年）ISBN 9784794218780、ISBN 9784794218797その他、適時指示						

科目区分	現代の教養系列／教養系列						
科目名	地球環境B（生物多様性）						
担当教員	吉野 健一					科目ナンバ-	Z5121B
学期	前期／1st semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	生物の基本的な仕組みとその多様性、および生物多様性と地球環境の相互作用とその重要性について学ぶ						
授業の概要	生物が長い歴史の中で環境との相互作用をしながら多様に進化してきたという視点を持ちながら、生物の基本的仕組みを学ぶ。また、病原体と人間の相互作用などを通して、生物間の関係性を理解していく。さらに、生物の基本的要件である複製・繁殖について学びながら、遺伝子・DNA・バイオテクノロジーへの理解を深める。						
到達目標	(1) 生物の仕組みに関する基本的な科学的知識、地球環境と生物多様性の関連性に関する基本的知識を習得できる。【知識・理解】 (2) 生物の基本的仕組みや遺伝子・DNAの知識を、身近な生活や問題と関連づけて考えることができる。【態度・志向性】 (3) 生物学、地球環境問題、および関連する医学、健康に関する様々な情報を適切に理解、解釈、分析し、正しく活用できる能力を身につけることができる【汎用的技能】						
授業計画	第1回：生物多様性とは 第2回：遺伝子組み換え技術と地球環境①：遺伝子組み換えとは 第3回：遺伝子組み換え技術と地球環境②：遺伝子組み換え、有用性と問題点 第4回：農業が生物多様性および地球環境に与える影響 第5回：病原体と人間との相互作用①：ウイルスと細菌 第6回：病原体と人間との相互作用②：地球環境の変化と新しい感染症 第7回：病原体と人間との相互作用③：ワクチンと健康を守る免疫 第8回：生物の複製・繁殖①：生殖法の多様性 第9回：生物の複製・繁殖②：ヒトの性決定システム 第10回：生物の複製・繁殖③：性決定システムの多様性 第11回：生物の複製・繁殖④：ヒトの初期発生 第12回：生物の複製・繁殖⑤：がんと細胞の増殖① 第13回：生物の複製・繁殖⑥：がんと細胞の増殖② 第14回：病原体と人間との相互作用④：新たな病原体プリオン 第15回：病原体と人間との相互作用⑤：プリオン病の歴史						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：manabaから配布される講義資料を用いて予習する（学習時間2時間） 授業後学習：授業内で示したテーマに関するニュース記事や類似の問題点を検索し、記事の内容やその背景を理解することによって、期末レポートの準備を行う（学習時間2時間）						
授業方法	講義。manabaを通して配布する講義資料をプロジェクターを使って解説する形式です。						
評価基準と評価方法	授業内提出物75%：manabaを利用した小テストを講義ごとに行います。 小テストは自由記入式と自動採点式の2種類があります。 期末レポート：25%。 単位の取得には10回以上出席し、2種類の小テストをそれぞれ10回以上受験することと、および期末レポートの提出が必須。						
履修上の注意	(1) 履修条件 生物学、地球環境、および関連する医学、健康に関する情報に興味をもち、積極的に授業に参加する学生を対象とします。 (2) その他 私語や飲食など、他の受講生の聴講を妨げたり、不適切な行為は厳禁。 講義中の迷惑行為、不適切な行為、学生便覧に記載された受講マナーや校内ルール（講義室におけるスマートフォンの充電等）に対する違反が認められた場合は減点します。 座席位置に関しては教員の指示に従ってください。 不正行為、類似答案、他の文献からのコピー＆ペースト等の不正行為が認められた場合は単位を認定しません。						
教科書	なし。manabaを通して毎回講義資料を配布します。						
参考書	『境界を生きる 性と生のはざままで』毎日新聞「境界を生きる取材班」著、毎日新聞 ISBN978-4-620-321783 『サビエンス全史』ユヴァル・ノア・ハラリ著、ISBN978-4309862934						

科目区分	現代の教養系列／教養系列						
科目名	地球環境C（エネルギーと資源）						
担当教員	永村 悦子					科目ナンバ-	Z5121C
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	月曜1	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	人の活動とエネルギー、資源とのかかわりについて、また地球環境への影響について学ぶ。						
授業の概要	地球の歴史の中で人類がその活動をどのように繰り返してきたかを、資源やエネルギーの観点から考える。具体的には、地球環境の現状や、生活にかかわるエネルギー利用、資源循環について講義する。また、快適性を犠牲にすることなく環境負荷の少ない生活を目指すための環境技術を紹介する。さまざまな資源やエネルギー変換について科学的に理解し、身近な生活におけるエネルギー消費と環境の問題とを関連づけて考えられること、さらに地球規模の環境問題やその保全という観点から、エネルギーと資源を考えられることを目標とする。						
到達目標	(1) エネルギーと資源に関する基本的な科学的知識を持っている。【知識・理解】 (2) 身近な生活におけるエネルギー消費と環境の問題とを関連づけることができる。【知識・理解】 (3) 地球規模の環境問題やその保全という観点から、エネルギーと資源を考えることができる。【態度・志向性】						
授業計画	第1回：オリエンテーション 第2回：環境・エネルギー 第3回：地球環境と人類の活動 第4回：地球規模の環境問題 地球温暖化・オゾン層破壊 第5回：さまざまなエネルギー資源 第6回：生活環境とエネルギー消費 第7回：エネルギー変換(1)火力発電・原子力発電 第8回：エネルギー変換(2)再生可能エネルギー 第9回：エネルギー変換(3)燃料電池 第10回：省エネルギー技術(1)未利用エネルギー・コージェネレーションシステム 第11回：省エネルギー技術(2)設備の省エネルギー 第12回：省エネルギー技術(3)建物の省エネルギー 第13回：生活環境と資源循環 第14回：ライフスタイルと持続可能な開発目標 第15回：授業のまとめと試験						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：授業計画にある各回のテーマに関連することがらを生活の中から見いだしたり、書籍、インターネット等にて下調べしたりする。(学習時間2時間) 授業後学習：授業で扱った内容について確認し、自らの暮らしや他の専門科目の学びに積極的に反映させる。(学習時間2時間)						
授業方法	講義 毎回の授業で、講義内容の重要箇所について小テストを行い、次回授業時にその確認をおこなう。						
評価基準と評価方法	小テスト40%、レポート30%、期末テスト30% 小テスト：講義内容の重要箇所について理解度を評価する。到達目標(1)(2)に関する到達度の確認。 レポート：講義によって得た知識を身近な生活に反映できる応用力を評価する。到達目標(3)に関する到達度の確認。 期末テスト：講義内容の重要箇所について理解度を評価する。到達目標(1)(2)に関する到達度の確認。 なお、小テストの解答、解説は次回授業にておこない、レポート、期末テストについては最終授業中に講評する。						
履修上の注意	評価では授業への取り組みを重視する。やむをえない理由がない限り欠席しない、私語をしないなどの基本姿勢を自覚すること。						
教科書	プリント配布						
参考書	授業内に紹介する						

科目区分	現代の教養系列／教養系列						
科目名	哲学						
担当教員	木下 昌巳					科目ナンバ-	Z11250
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	哲学とは、私たちが日常抱えている常識を突き抜け、世界と人間に対して全体的かつ根源的な認識を獲得しようとする学問である。究極的な意味において世界は何から成り立っているのか？私たち人間は、何をどこまで知ることができるのか？そして、その世界のなかで、私たちはどのように生きていけばよいのか？このような問いに正面から取り組み、可能な限りその解答を得ようとするのが哲学である。この授業では、哲学という学問を初めて学ぶ人に対して古代ギリシアと近世ヨーロッパの主要な哲学者の思想を取り上げ解説する。そして哲学という学問の問題意識と代表的な思想家の思想を学ぶことによって、論理的・抽象的思考の能力を養うことを目指す。						
授業の概要	この授業では、前半では西洋において哲学的思考が誕生した紀元前5世紀から4世紀の古代ギリシアの哲学者の思想を、後半では西洋における哲学的思考の最盛期と言える17世紀から19世紀の重要な哲学者の思想を年代順に取り上げながら、彼らの問題意識と思想内容を解説する。さらに、授業のテーマごとにそれと関連するさまざまな現代的なトピックを取り上げながら、現代における哲学的思想の必要性をあきらかにする。						
到達目標	1. 主要な哲学者の思想を理解することを通じて、哲学という学問の問題意識と思考方法の理解できる。【知識・理解】 2. 過去の哲学者の考え方の道筋を理解することによって、それを通じてあらゆる学問の基礎となるような理論的・抽象的な思考方法を身につけることができるようにする。【汎用性技能】 3. 哲学とは、難解な専門用語や哲学者の名前や著作名を暗記することではない。生きていくなかで直面するさまざまな問題に対して、常識や先入観によって答えを決めつけるのではなく、そこで問題になっていることを自分の頭で自律的に考える態度を身につけ、それを他者にも理解できような仕方での自分の言葉で説明できるようにする。【態度・指向性】						
授業計画	【哲学とは何か】 01 「哲学」とは何か？－「知を愛する」という営み 【古代ギリシアの哲学】 02 「哲学」の始まり－古代ギリシアと哲学 03 万物の始源を求めて－ミレトス派の問い 04 アキレスと亀－エレア派の思想 05 「よく生きる」ために－ソクラテスの生き方 06 プラトンのイデア論 07 「万学の祖」－アリストテレス 08 アリストテレスの倫理学－「中庸」の思想 【ヨーロッパ近代の哲学】 09 デカルトの哲学1－「私は考える。ゆえに私は存在する。」 10 デカルトの哲学2－心身二元論と心身問題 11 イギリス経験論1－生得観念とタブラ・ラサ 12 イギリス経験論2－観念の分類と観念連合 13 ニーチェの思想1－道徳の系譜学 14 ニーチェの思想2－奴隷道徳 15 ニーチェの思想3－貴族道徳						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：各回講義前に授業回該当するテキストの章を熟読しておくこと。（学習時間：2時間） 授業後学習：松蔭manabaを用いた小テストに取り組む。 授業で使用するPowerPointのファイルは授業前にmanabaにアップロードするので、各自ダウンロードして活用してください。（学習時間：2時間）						
授業方法	パワーポイントを用いて講義をおこなう。 毎回の授業で授業内容についての理解を問う小テストをmanabaから課する。						
評価基準と評価方法	1. 授業毎の小テストは全体で30点満点、授業全体の終了時のレポート70点満点として総合的に評価する。 2. レポートの書き方の詳細については授業内で説明する。						
履修上の注意	1. 授業回数15回中、3分の1以上の欠席者は原則単位を認定しない。 2. 20分以上の遅刻は欠席扱いとする。 3. レポート未提出者は単位認定を認めない。						
教科書	伊藤邦武『物語 哲学の歴史－自分と世界を考えるために』（中公新書 2012年）ISBN:978-4121021878						
参考書	『哲学の歴史』全13巻（中央公論新社 2007-2008年）ISBN:978-4124035186他 現在、日本で出版されているもっとも詳しい哲学史。内容は細かいが、授業で取り上げた哲学者とその思想について、さまざまな知識を得ることができる。						

科目区分	現代の教養系列／教養系列						
科目名	データ理解と統計						
担当教員	待田 昌二					科目ナンバ-	72020
学期	前期／1st semester	曜日・時限	金曜2	配当学年	2～3	単位数	2.0
授業のテーマ	データについて理解を深め、統計的分析方法を身につける						
授業の概要	「現代社会とデータ」において学んだ内容をふまえ、統計的検定やデータ分析の応用、多変量解析の基礎を学ぶ。同時に、課題演習（課題の発見、調査計画、データ収集と分析）にも取り組む。						
到達目標	<p>(1) 収集、分析したデータを適切な方法で可視化し、わかりやすく人に伝えることができる。【汎用的技能】</p> <p>(2) データの種類やデータの分布を把握し、仮説検定の方法を正しく選択することができる。【知識・理解】</p> <p>(3) 表計算ソフトと統計解析ソフトウェアを利用し、目的に応じた検定を行うことができる。【汎用的技能】</p>						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 質問紙調査の例</li> <li>2. 質問紙の作成：質問項目</li> <li>3. 質問紙の作成：質問紙のチェック</li> <li>4. 表計算ソフトでの集計とグラフ化</li> <li>5. 母集団と標本抽出</li> <li>6. 統計的検定の考え方と手順</li> <li>7. 単純集計・クロス集計結果の検定</li> <li>8. 平均値の差の検定：独立した標本</li> <li>9. 平均値の差の検定：関連した標本</li> <li>10. 分散分析</li> <li>11. 二要因分散分析</li> <li>12. 相関</li> <li>13. 回帰分析</li> <li>14. データの予測と分類</li> <li>15. まとめと達成度確認試験</li> </ol>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	<p>授業前学習：松蔭manabaで授業前に示す課題を行う（学習時間＜1時間＞）</p> <p>授業後学習：松蔭manabaで授業後に示す課題を行うとともに授業内容を試験に結実させるよう復習し、身近な問題に結び付けて考える（学習時間＜3時間＞）</p>						
授業方法	主に講義形式だが、コンピュータ教室において、コンピュータ操作による演習・実習を取り入れて実施する。						
評価基準と評価方法	<p>授業に関する課題 60%：毎回の授業で課す課題（事前課題、授業中の課題、事後課題）の評価。到達目標(1)(2)(3)に関する到達度の確認。</p> <p>達成度確認試験 40%：授業で解説した重要事項を説明、データの集計、加工、分析、図示などについて評価。到達目標(1)(2)(3)に関する到達度の確認。</p>						
履修上の注意	「現代社会とデータ」を履修済み、あるいは同等以上の能力があると認められる者に限る。大幅な遅刻は出席と認めない。スマートフォンの電源オフなど授業マナーを守ること。						
教科書	なし。適宜、プリントを配布する。						
参考書	「心理・教育のための統計法 第3版」サイエンス社 ISBN：978-4-7819-1235-6						

科目区分	現代の教養系列／教養系列						
科目名	東西芸術の文化史						
担当教員	上久保 真理					科目ナンバ-	J72570
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	異質な文化と出会うとき、新しいものが生まれる。						
授業の概要	西洋と東洋はそれぞれに独自の文化を発展させてきた。その東西が出会うとき、いつも新たな文化的展開の可能性が生まれてきたと言える。異質な文化との比較と区別はまた、互いの相違を通して他者から見た自分を知る契機でもある。ここではいくつかのキーワードを手がかりに、芸術という側面から異なる文化・伝統を比較することで見てくるものについてを考える。						
到達目標	1) 東西芸術の歴史の中で、異なる文化・伝統がどのように出会い、互いに影響しあって新たな文化的展開を生み出してきたかを学び、理解することができる。【知識・理解】 2) わたしたちのものの見方が文化・伝統によって裏打ちされており、その変化がわたしたちのものの見方を変えることに気づくことができる。【知識・理解】 3) 異文化との出会いがさらなる文化的発展につながりうることを意識し、積極的に学び、伝える姿勢をもつことができるようになる。 【態度・志向性】						
授業計画	第1回 今自分が気になるもの・こと 第2回 東西の世界（自然）観 第3回 月にまつわるもの 第4回 旅路の果て 第5回 地図を描く 第6回 鏡をとおして 第7回 踊るからだ 第8回 空間感覚 第9回 庭園とは何か 第10回 複製について 第11回 空想の美術館 第12回 書と抽象 第13回 時間芸術？ 第14回 コスプレ・自撮り 第15回 自分の立ち位置から						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	・授業前準備学習：授業計画の各回のテーマについて、各自が前もってインターネットや書籍で調べてみるなどして予習を行うこと（学習時間2時間）。 ・授業後学習：授業で取り上げた箇所の時代背景や、授業で興味を持った文化や作品・作家などについて、各自がさらに掘り下げて調べてみる（学習時間2時間）。授業内で紹介した絵画や図書、映画も見てみて欲しい。						
授業方法	講義：各回のテーマについて、スライドを見ながら講義を行う。簡単なワークショップ、ディスカッションも取り入れていきたい。						
評価基準と評価方法	・平常点30%：毎回提出のリアクションシート（授業内容についてのコメント・課題に対する解答）。到達目標(1)、(2)に関する到達度の確認。 ・宿題レポートなどの提出物や発表など20%：授業内容についての課題に対する解答・自身の意見提示。到達目標(1)、(2)、(3)に関する到達度の確認。 ・期末レポート50%：授業内容の理解度と、歴史を踏まえ異文化交流とそこから生まれる新たな文化的展開について積極的に考察・展望する姿勢を評価する。到達目標(2)、(3)に関する到達度の確認。						
履修上の注意	受講に際しての注意事項は最初の授業時にプリントで配布する。 授業の進行状況や新しいトピックの挿入等により、毎回の授業計画に変更の可能性もある。						
教科書	適宜、資料を配布する。						
参考書	授業中に随時紹介する。						

科目区分	現代の教養系列／教養系列						
科目名	日本の歴史と文化A						
担当教員	打田 素之					科目ナンバ-	Z5132A
学期	前期／1st semester	曜日・時限	火曜4	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	古代から近世までの日本の歴史と文化						
授業の概要	日本語教育の参照枠B1レベルの学生を対象とするクラスである。日本語や日本文化の根底に流れる、知っておくべき日本の歴史を理解し、その中で培われてきた日本文化を知ることを通じて、日本的な文化背景や価値観などを理解することができる。						
到達目標	(1) 日本の歴史を知ることを通じて、日本文化を理解することができる。【知識・理解】 (2) 日本文化を知ることによって、言語に現れる文化、日本の習慣などを理解することができる。【汎用的技能】						
授業計画	第1回 オリエンテーション 第2回 I. 古代 小国の分立と邪馬台国 第3回 ヤマト政権 第4回 奈良時代の始まり 第5回 平安時代と摂関政治 第6回 国風文化 第7回 II. 中世 鎌倉幕府の成立 第8回 武士の生活と支配の拡大 第9回 モンゴル襲来 第10回 III. 近世 信長・秀吉の全国統一 第11回 江戸幕府の成立と幕藩体制 第12回 鎖国政策と江戸時代の文化 第13回 農民・町人の支配と身分制 第14回 幕府の衰退 第15回 前期のまとめとテスト						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	事前学習：わからない単語や文法について調べる。〈学習時間2時間〉 事後学習：授業で出された課題や宿題をやる。〈学習時間2時間〉						
授業方法	演習、講義						
評価基準と評価方法	授業への参加度、課題や小テスト、試験・レポートなどの総合評価： 授業への参加度（30%）＋課題や小テスト（30%） ＋ 中間・期末試験あるいはレポート（40%）						
履修上の注意	このクラスは留学生のためのクラスです。 3回以上休むと試験が受けられません。						
教科書	プリントを配布する。						
参考書	「図解で総まとめ高校日本史」（受験研究社） 「よくわかる高校日本史探求」（Gakken）						

科目区分	現代の教養系列／教養系列						
科目名	日本の歴史と文化B						
担当教員	打田 素之					科目ナンバ-	Z5132B
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	火曜4	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	近・現代の日本社会と文化						
授業の概要	日本語教育の参照枠B2レベルの学生を対象とするクラスである。日本語や日本文化の根底に流れる、知っておくべき日本の歴史を理解し、その中で培われてきた日本文化を知ることを通じて、日本的な文化背景や価値観などをより深く、理解することができる。						
到達目標	(1) 日本の歴史を知ることを通じて、日本文化を理解することができる。【知識・理解】 (2) 日本文化を知ることによって、言語に現れる文化、日本の習慣などを理解することができる。【汎用的技能】						
授業計画	第1回 前期の復習と後期のオリエンテーション 第2回 IV. 近代 開国とその影響 第3回 尊王攘夷運動 第4回 江戸幕府の滅亡と士族の反乱 第5回 明治維新と中央集権体制 第6回 日清戦争 第7回 日露戦争 第8回 第1次世界大戦 第9回 軍部の台頭と日中戦争 第10回 第2次世界大戦 第11回 V. 現代 占領と民主化政策 第12回 冷戦と日本の独立 第13回 高緯度経済成長 第14回 現代の政治と文化 第15回 後期のまとめとテスト						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	事前学習：わからない単語や文法について調べる。〈学習時間2時間〉 事後学習：授業で出された課題や宿題をやる。〈学習時間2時間〉						
授業方法	演習、講義						
評価基準と評価方法	授業への参加度、課題や小テスト、試験・レポートなどの総合評価： 授業への参加度（30%）＋課題や小テスト（30%） ＋ 中間・期末試験あるいはレポート（40%）						
履修上の注意	このクラスは留学生のためのクラスです。 3回以上休むと試験が受けられません。						
教科書	プリントを配布する。						
参考書	「図解で総まとめ高校日本史」（受験研究社） 「よくわかる高校日本史探求」（Gakken）						

科目区分	現代の教養系列／教養系列						
科目名	発達心理学A						
担当教員	久津木 文					科目ナンバ-	P1202A
学期	前期／1st semester	曜日・時限	木曜1	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	生涯を通しての人間の心と認知の発達						
授業の概要	人の生涯にわたる変化を扱うのが発達心理学であり、現在、その対象は生まれる前から死に至るまでを含む。本講義では主に、新生児期から幼児期までの発達を中心に扱う。						
到達目標	1)②誕生から死に至るまでの生涯における心身の発達について学び、説明できるようになる【知識・理解】 2)①認知機能の発達及び感情・社会性の発達についての理解できるようになる【知識・理解】 3)③自己と他者の関係の在り方と心理的発達についての理解できるようになる【知識・理解】 ①～③は公認心理師カリキュラムにおける大項目。						
授業計画	1 オリエンテーション 発達とは 2 発達の仕組みと様相 3 乳幼児発達心理学の研究法 4 遺伝と環境 5 胎児期・新生児期 6 乳幼児期の運動発達&中間1 7 乳児期～知覚 8 乳児期～素朴物理学と素朴心理学 9 乳児期～情動・愛着の発達 10 乳児期～コミュニケーションの芽生え1 前言語期 11 乳児期～コミュニケーションの芽生え2 言語期 12 幼児期～社会性の発達&中間2 13 幼児期～表象の獲得 14 まとめと期末試験 15 試験の講評と復習						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	発達心理学関係の教科書・テキスト（図書館に複数蔵書あり）を読んでおくこと。 授業前学習：授業で扱うトピックについての予習（2時間）。 授業後学習：授業で扱ったトピックについての宿題や復習（2時間）。						
授業方法	講義を中心とするが、授業で扱うテーマについてグループで話し合いクラス全体に発表することを行うこともある。						
評価基準と評価方法	授業態度及び小レポート50% 期末テスト&中間テスト50% 授業態度及び小レポート：授業でのグループディスカッション及び小レポートを総合的に評価する（到達目標到達目標（1）～（3）に関する到達度の確認）。 期末テスト：学期末に実施する（到達目標（1）～（3）に関する到達度の確認）。						
履修上の注意	私語厳禁（私語が多かったり授業態度が悪いと判断されたら減点されます） 5回の欠席で、受講資格を失います。 * 補講時間・場所などはポータルを確認のこと。 * 欠席連絡・成績については、直接、授業前後に話しに来てください。						
教科書	問いからはじめる発達心理学【改訂版】（有斐閣） ISBN-10 : 4641151296						
参考書	適宜紹介する						

科目区分	現代の教養系列／教養系列						
科目名	阪神デザイン論						
担当教員	森 治子					科目ナンバ-	F72010
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	この授業では、「阪神間」と呼ばれる地域の歴史と文化的特徴を学ぶことにより、身近な地域文化を理解する力を身につける。						
授業の概要	阪神間の形成過程を学ぶとともに、阪神間のライフスタイルをデザインという観点から読み解き、その文化的特徴について検討する。授業では衣食住に関する文化のほか、阪神間で生まれた美術、文学、音楽、芸能などについて取り上げ、考察する。						
到達目標	1. 身近な地域の歴史的な背景を知り、それらがもつ価値について考えることができる。【知識・理解】 2. 地域の文化を観察し、新しい魅力を発見することができるようになる。【汎用的技能】 3. 地域文化の活性化について計画を立てたり、地域文化施策について提言することができるようになる。【汎用的技能】						
授業計画	1. 「阪神間」とは 2. 阪神間の開発 3. 阪神間の郊外住宅地の形成 4. 阪神間モダニズム 5. 阪神間のライフスタイル（1）明治・大正・昭和初期 6. 阪神間のライフスタイル（2）戦中～戦後 7. 阪神間のファッション 8. 阪神間の建築 9. 阪神間の食文化（1）洋食 10. 阪神間の食文化（2）パンと洋菓子 11. 阪神間の美術（1）具体 12. 阪神間の美術（2）芦屋カメラクラブと新興写真 13. 阪神間の娯楽（1）宝塚・戦前 14. 阪神間の娯楽（2）宝塚・戦後 15. まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	【授業前準備学習】授業内で次回授業の準備学習について説明する<2時間>。 【授業後学習】学習内容を確認し、わからない語句等は調べてノートを整理する<2時間>。						
授業方法	レジュメと映像資料を使用し、講義形式でおこなう。						
評価基準と評価方法	平常点：50% レポート：50% 平常点のうち、コメントカードが30%、小レポートが20%とする。						
履修上の注意	位取得のためには10回以上の出席を必要とする。 授業後学習、伝達事項などにmanabaを活用する。						
教科書	使用しない。						
参考書	必要に応じて授業内で紹介する。						

科目区分	現代の教養系列／教養系列						
科目名	美術鑑賞						
担当教員	宮地 佳代					科目ナンバ-	251060
学期	前期／1st semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	さまざまな美術作品に触れ、美術への理解、関心を深める。						
授業の概要	<p>美術には、どのような表現方法、形態、機能があるのか、そこにはどんな特徴があるのか、多様な美術作品に触れることによって視野を拓け、美術への理解、関心を深める。</p> <p>この授業では、フレスコ画、テンペラ画、油彩画、日本画、版画、彫塑、素描作品をとりあげる。それらの技法の特徴を知り、個々の作品の背後にあるものを探り、また西洋と日本の表現を比較・照合することでその表現の差異を考察する。作品には「何が」「どのように」表現され、「なぜ」その作品が創られたのか、美術の多様性、多義性を知ると同時に自分自身の感想を述べる力を養う。</p> <p>また、授業において美術作品の鑑賞について学んだ上で、授業外においても鑑賞機会を持つことで美術への理解をより一層深める。</p>						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 美術作品の表現技法について基礎知識を持ち、美術の多様性、多義性が理解できる。【知識・理解】</li> <li>2. 美術作品を鑑賞する基本的能力を持ち、自分自身の感想を述べるができる。【汎用的技能】</li> <li>3. 美術作品に関心を持ち、積極的に鑑賞する姿勢を身につけている。【態度・志向性】</li> </ol>						
授業計画	第1回 オリエンテーション 第2回 油彩画 第3回 日本画 (1) 形態と機能 第4回 日本画 (2) 表現 第5回 遠近法 第6回 視覚の変貌 第7回 フレスコ画 第8回 テンペラ画 第9回 時間の表現 (1) 日本の絵巻 第10回 時間の表現 (2) 西洋の絵画 第11回 版画 (1) 版画の特性 第12回 版画 (2) 凸版／孔版 第13回 版画 (3) 凹版／平版 第14回 素描 第15回 彫塑						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	<p>日頃から美術作品（美術館やギャラリー、街中に設置されている作品等）をみて多くの作品と出会い、気にとまった作品の作家や感想を松蔭manaba【掲示板】に投稿。詳細については授業内で説明する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業前学習：次回授業のキーワード、美術用語（授業内で提示）についての下調べ（2時間）。</li> <li>・授業後学習：授業で取り上げた作家、作品、技法等の確認と発展。 授業終了後、松蔭manaba【ユースネット】に資料を掲載します。（2時間）。</li> <li>・別途レポート（欠席等による課題レポートを補う）。詳細については授業内で説明する。</li> </ul>						
授業方法	<p>講義：スライド、映像資料などを用いて授業を進める。</p> <p>毎回、授業内容に沿って設けたテーマについての課題レポートを実施。</p>						
評価基準と評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題レポート60%：授業内で実施。到達目標(1)【知識・理解】(2)【汎用的技能】の到達度の確認。レポートテーマは、毎回授業内容によって異なる。</li> <li>・鑑賞レポート10%：授業外（松蔭manaba）で実施。到達目標(3)【態度・志向性】の到達度の確認。授業期間中に開催される京阪神の複数の展覧会を授業内で紹介します。いずれかの展覧会を鑑賞（各自が交通費、入館料等の費用は自己負担）し、作家や作品の感想を松蔭manaba【掲示板】に投稿。 または、街中に設置されている美術作品を鑑賞し、作品の感想を松蔭manaba【掲示板】に投稿。</li> <li>・期末レポート30%：松蔭manaba【レポート】で実施。 到達目標(1)【知識・理解】(2)【汎用的技能】(3)【態度・志向性】の確認。 詳細については授業内で説明する。</li> </ul>						
履修上の注意	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 授業回数の1/3以上欠席した者は、単位認定を行わない。</li> <li>2. 授業外における美術鑑賞は必須。鑑賞レポートがない場合、単位認定を行わない。</li> <li>3. 学外での作品鑑賞に関する費用（交通費、入館料等）は、自己負担。</li> <li>4. 授業の進行状況によっては、授業内容を変更する場合があります。</li> </ol>						
教科書	プリントを配布する。						

参考書	授業内で紹介する。
-----	-----------

科目区分	現代の教養系列／教養系列						
科目名	文化人類学						
担当教員	松岡 靖					科目ナンバ-	Z12170
学期	前期／1st semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	2～3	単位数	2.0
授業のテーマ	文化人類学を教養として学ぶことで、自分たちの文化を相対化してみよう。						
授業の概要	この科目では、文化人類学の古典的な民族誌を紹介しながら、非西洋社会の親族構造、婚姻体系、集団形成、性役割分業などについて学んでいく。他者の異文化を学ぶことは異文化理解に役立つだけではなく、自文化では「あたりまえ」と思い込んでいる諸概念を、他者の視点から捉え返す客観性を養うことでもある。とりわけ授業では近代西洋中心の思考に傾倒しがちな私たち自身を批判的に考察していく。その学びを通じて「西洋的思考／非西洋的思考」という単純な二項対立図式に陥ることのない思考を発見したい。						
到達目標	1. 文化人類学の学説史と民族誌の初歩的知識を学生が理解できる【知識・理解】。 2. 近代的な西洋中心主義の特徴と限界を簡潔に学生が説明できる【知識・理解】。 3. 具体的な文化的差異を題材に自文化の特徴を学生が考察できる【知識・理解】。						
授業計画	第1回 ガイダンス：文化人類学のイメージは？ 第2回 パーチャルツアー：みんぱく・れきはく 第3回 基礎概念(1) 自文化中心と文化相対 第4回 基礎概念(2) ろう文化宣言のインパクト 第5回 基礎概念(3) 親族構造の変容と進化主義 第6回 基礎概念(4) オリエンタリズム×ジェンダー 第7回 映像にみる民族誌(1) 南アフリカのスラム 第8回 映像にみる民族誌(2) ネパールの結婚 第9回 民族誌の古典に挑戦(1) 『男性と女性』 第10回 民族誌の古典に挑戦(2) 『タテ社会の人間関係』 第11回 映像にみる日本の多様性(1) 在日コリアン 第12回 映像にみる日本の多様性(2) アイヌ民族 第13回 映像にみる日本の多様性(3) 琉球・沖縄 第14回 人類学の実践：グループ発表と質疑応答 第15回 全体のまとめ：レポート返却と成績説明						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	1. 授業前学習：各回のキーワードについて調べて授業で発表する<計10時間>。 2. 授業後学習：学んだ概念で文化事象を解釈して次回に発表する<計10時間>。 3. 期末レポート：文化事象に関するレポートを題目から作成する<計40時間>。						
授業方法	1. 前半は教員の講義と視聴覚教材に関するディスカッションを行う。 2. 中盤は視聴覚教材をめぐって教員の解説と質疑応答を取り入れる。 3. 後半はレポートの作成・発表・質疑を準備する指導を取り入れる。						
評価基準と評価方法	1. 平常点40点（毎回のコメントカード、プレゼンテーションなど） 2. レポート60点（現代日本における文化事象を批判的に分析する）						
履修上の注意	1. 授業が理解できなければ遠慮せず積極的に質問すること。 2. 私語等で他の学生に迷惑をかけるなら自ら欠席すること。 3. 2/3以上の出席に満たない場合レポート提出資格を失う。						
教科書	とくに指定せず必要な資料を配付する。						
参考書	『男性と女性』 マーガレット・ミード著、田中寿美子・加藤秀俊訳、東京創元社、ISBN9784488006631 『タテ社会の人間関係』 中根千枝、講談社、ISBN9784061155053						

科目区分	現代の教養系列／教養系列						
科目名	ボランティア体験						
担当教員	木鎌 耕一郎					科目ナンバ-	Z12190
学期	集中講義	曜日・時限	集中1	配当学年	2～3	単位数	1.0
授業のテーマ	ボランティアの学びと体験						
授業の概要	ボランティアに関する基礎知識を学び、実践する目的を自覚し、注意すべき点を理解した上でボランティアの実践を行う。他者とともに生きることと自分が果たせる役割を考えながら責任をもって実践し、感じた経験、問題点を報告しながら実践を改善していく。実践後に自身の体験と得られたものを言語化してまとめることで、経験を内在化する。						
到達目標	(1) ボランティアに関する基礎知識、実践する目的、注意すべき点を理解できる。【知識・理解】 (2) ボランティア実践の基礎知識を現場の状況に即して生かして改善し、自身の経験を他者に伝えることができる。【汎用的技能】 (3) 多様な人たちを価値ある存在として認め、他者への思いやりと社会に貢献する姿勢を身につけている。【態度・志向性】						
授業計画	<p>【初回授業】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・(4月9日(水) 5限) オリエンテーション (授業の目標・進め方・評価方法等を理解する)</li> </ul> <p>【事前指導】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1回目(4月15日(火) 5限) ボランティアの基礎知識・実践の目的・注意事項</li> <li>・2回目(4月16日(水) 5限) ボランティアの種類・探し方</li> </ul> <p>【ボランティア体験】</p> <p>指定した期間中(概ね5月～12月)に、原則として2か所、合計10時間以上のボランティアを行なう。参加にあたってはボランティア計画を作成し、提出する。</p> <p>【事後指導】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1回目(1月13日(火) 5限) グループディスカッション(PC必携)</li> <li>・2回目(1月14日(水) 5限) 体験発表・レポートの提出(PC必携)</li> </ul>						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業前準備学習: ボランティアに関する参考図書やインターネットによって下調べをして、自分なりにノートにまとめる。(学習時間: 2時間)</li> <li>・授業後学習: 授業で扱った内容をノートにまとめ、授業内で示した課題に取り組む(学習時間: 2時間)</li> </ul>						
授業方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習。事前指導、各自のボランティア体験、事後指導(グループディスカッションと体験発表)を行う。</li> <li>・この科目はBYOD(パソコン必携)科目である。PC必携の授業日程(事後指導)については、授業計画を参照のこと。</li> </ul>						
評価基準と評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業内での提出物30%: 小テストおよびリアクションペーパー 到達目標(1)の確認</li> <li>・レポートと発表70%: 体験したボランティアに関するレポートと発表 到達目標(1)(2)(3)の確認</li> </ul>						
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前指導と事後指導の日程は、変更する場合がある。</li> <li>・体験するボランティアは各自が探す。探し方については、事前指導で説明する。</li> </ul>						
教科書	なし。						
参考書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前林清和、中村浩也編著『SDGs時代の社会貢献活動: 一人ひとりができることとは』昭和堂</li> <li>・早稲田大学平山郁夫記念ボランティアセンター編『体験の言語化実践ガイドブック』成文堂</li> </ul>						

科目区分	現代の教養系列／教養系列						
科目名	ボランティア論						
担当教員	山口 宰					科目ナンバ-	Z11180
学期	前期／1st semester	曜日・時限	火曜2	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	ボランティアの理論と実践						
授業の概要	阪神淡路大震災をひとつの契機としてその存在が一般的に認知されるようになったボランティアは、今日、社会の様々な場面において欠かせない存在となった。そこで本講義では、ボランティアの歴史や現状、多様な学問分野からの理論的な分析、そして国内外の様々な現場における先駆者たちの実践の紹介を通じて、ボランティアの本質に迫ること、そして、グループワーク等を通して実際にボランティアを実践するためのスキルを身につけることを目的とする。						
到達目標	1. ボランティアとは何かを理解し、自身の「ボランティア観」を持つことができる。【知識・理解】 2. ボランティアを実践するための理論と方法を身につけることができる。【知識・理解】						
授業計画	1. オリエンテーション：本講義で学ぶ内容、講義の進め方、成績評価の方法について、詳細に説明を行う。 2. 阪神淡路大震災とボランティア：ボランティアへの認識が広まるきっかけとなった阪神淡路大震災と、そのときに行われたボランティア活動について学ぶ。 3. 東日本大震災とボランティア：東日本大震災の実際と、そのときに行われたボランティア活動について学ぶ。 4. 人はなぜボランティアをするのか：様々な学問分野の手法を用いて、人がなぜボランティアをするのかを分析する。 5. 人はなぜ人を助けるのか：人が人を助ける心理的なメカニズムについて、様々な研究を踏まえながら、社会心理学の観点から考察する。 6. インセンティブとボランティア：インセンティブを与えることが、人の行動にどのような影響を与えるか、またボランティアにどのように結び付くのかを考察する。 7. 富山型デイサービスとボランティア：「富山方式」「共生ケア」として有名になった富山型デイサービスを題材に、先駆者が切り開いてきた福祉のあり方を学ぶ。 8. 新型インフルエンザとボランティア：2009年5月に神戸で新型インフルエンザが流行した際の状況と、ボランティア活動の実態について学ぶ。 9. タイガーマスク運動とボランティア：2010年12月より全国的に広がったタイガーマスク運動を題材に、効果的なボランティアのあり方について考察する。 10. 医療事故とボランティア：様々な医療事故を防ぐために行われているボランティア活動について学び、ボランティア活動のあり方を考える。 11. 小児医療とボランティア：病氣と戦う子どもたちと、子どもたちを支える活動について学び、小児医療のあり方について考える。 12. 終末期医療とボランティア：「その人らしい最期」を支えるボランティアの活動を通して、終末期医療のあり方について考える。 13. 国際ボランティア：国際ボランティア活動の実践事例を紹介するとともに、これからの国際ボランティアのあり方を考察する。 14. スウェーデンとボランティア：スウェーデンの歴史や文化、社会や政治、福祉の現状について学び、スウェーデンが福祉先進国となった理由、我が国が学べることについて考察する。 15. まとめ—これからのボランティアのあり方						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：各回授業で扱う内容について、参考書等で下調べをする（2時間） 授業後学習：授業で取り上げた内容について、参考書等で復習し、理解を深める（2時間）						
授業方法	講義：授業テーマに関連する問題を出題し、ペアまたはグループによるディスカッションを行う グループワーク：授業テーマに関連するグループワークを実施し、その結果を踏まえた講義を行う  【実務経験のある教員等による授業】 社会福祉法人の経営者・コンサルタントとしての実務経験を持つ担当教員が、現場における事例の紹介や、実践的なディスカッションを交えて、ボランティアの理論と実践を指導する。						
評価基準と評価方法	授業ごとに提出するワークシート（20%）、期末レポート（80%）による ワークシートのコメント・質問等については、次回の授業で紹介・解説を行う						
履修上の注意	授業への積極的な参加を期待する						
教科書	授業中に指示する						

参考書	「恋するようにボランティアを〔優しき挑戦者たち〕」 (大熊由紀子・2008年・ぶどう社) 「明日の福祉に希望の光を―オリンピアのノーマライゼーション」 (山口 宰・2013年・聖公会出版) 「介護リーダー1年目の教科書：無理せずに、理想のチームをつくるためのみちしるべ」 (山口 宰・2024年・中央法規出版)
-----	--

科目区分	現代の教養系列／教養系列						
科目名	ボランティア論						
担当教員	山口 宰					科目ナンバ-	Z11180
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	火曜2	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	ボランティアの理論と実践						
授業の概要	阪神淡路大震災をひとつの契機としてその存在が一般的に認知されるようになったボランティアは、今日、社会の様々な場面において欠かせない存在となった。そこで本講義では、ボランティアの歴史や現状、多様な学問分野からの理論的な分析、そして国内外の様々な現場における先駆者たちの実践の紹介を通じて、ボランティアの本質に迫ること、そして、グループワーク等を通して実際にボランティアを実践するためのスキルを身につけることを目的とする。						
到達目標	1. ボランティアとは何かを理解し、自身の「ボランティア観」を持つことができる。【知識・理解】 2. ボランティアを実践するための理論と方法を身につけることができる。【知識・理解】						
授業計画	1. オリエンテーション：本講義で学ぶ内容、講義の進め方、成績評価の方法について、詳細に説明を行う。 2. 阪神淡路大震災とボランティア：ボランティアへの認識が広まるきっかけとなった阪神淡路大震災と、そのときに行われたボランティア活動について学ぶ。 3. 東日本大震災とボランティア：東日本大震災の実際と、そのときに行われたボランティア活動について学ぶ。 4. 人はなぜボランティアをするのか：様々な学問分野の手法を用いて、人がなぜボランティアをするのかを分析する。 5. 人はなぜ人を助けるのか：人が人を助ける心理的なメカニズムについて、様々な研究を踏まえながら、社会心理学の観点から考察する。 6. インセンティブとボランティア：インセンティブを与えることが、人の行動にどのような影響を与えるか、またボランティアにどのように結び付くのかを考察する。 7. 富山型デイサービスとボランティア：「富山方式」「共生ケア」として有名になった富山型デイサービスを題材に、先駆者が切り開いてきた福祉のあり方を学ぶ。 8. 新型インフルエンザとボランティア：2009年5月に神戸で新型インフルエンザが流行した際の状況と、ボランティア活動の実態について学ぶ。 9. タイガーマスク運動とボランティア：2010年12月より全国的に広がったタイガーマスク運動を題材に、効果的なボランティアのあり方について考察する。 10. 医療事故とボランティア：様々な医療事故を防ぐために行われているボランティア活動について学び、ボランティア活動のあり方を考える。 11. 小児医療とボランティア：病氣と戦う子どもたちと、子どもたちを支える活動について学び、小児医療のあり方について考える。 12. 終末期医療とボランティア：「その人らしい最期」を支えるボランティアの活動を通して、終末期医療のあり方について考える。 13. 国際ボランティア：国際ボランティア活動の実践事例を紹介するとともに、これからの国際ボランティアのあり方を考察する。 14. スウェーデンとボランティア：スウェーデンの歴史や文化、社会や政治、福祉の現状について学び、スウェーデンが福祉先進国となった理由、我が国が学べることについて考察する。 15. まとめ—これからのボランティアのあり方						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：各回授業で扱う内容について、参考書等で下調べをする（2時間） 授業後学習：授業で取り上げた内容について、参考書等で復習し、理解を深める（2時間）						
授業方法	講義：授業テーマに関連する問題を出題し、ペアまたはグループによるディスカッションを行う グループワーク：授業テーマに関連するグループワークを実施し、その結果を踏まえた講義を行う  【実務経験のある教員等による授業】 社会福祉法人の経営者・コンサルタントとしての実務経験を持つ担当教員が、現場における事例の紹介や、実践的なディスカッションを交えて、ボランティアの理論と実践を指導する。						
評価基準と評価方法	授業ごとに提出するワークシート（20%）、期末レポート（80%）による ワークシートのコメント・質問等については、次回の授業で紹介・解説を行う						
履修上の注意	授業への積極的な参加を期待する						
教科書	授業中に指示する						

参考書	「恋するようにボランティアを〔優しき挑戦者たち〕」 (大熊由紀子・2008年・ぶどう社) 「明日の福祉に希望の光を―オリンピアのノーマライゼーション」 (山口 宰・2013年・聖公会出版) 「介護リーダー1年目の教科書：無理せずに、理想のチームをつくるためのみちしるべ」 (山口 宰・2024年・中央法規出版)
-----	--

科目区分	現代の教養系列／教養系列						
科目名	マーケティング論						
担当教員	青谷 実知代					科目ナンバ-	U12090
学期	前期／1st semester	曜日・時限	火曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	社会における新しい動きや経験を創り出す、「マーケティング・デザイン」について理解を深め、強い創造志向と未来志向を学修することが目的である。						
授業の概要	<p>「デザイン」には、色や形を創り出す活動の印象がありますが、本講座では、「社会や消費の動きや経験を生み出すこと」を「マーケティング・デザイン」と捉え学修する。</p> <p>社会の中に新しい動きを創るためには、①新たな顧客を発見すること、②それらと共に、新たな顧客体験と実現の仕組みと、収益の仕組みを創造することが不可欠である。</p> <p>2000年以降、インターネット、ソーシャルメディアなどが登場し、世界の社会基盤は大きく進化した。同時に、我が国では超高齢化社会と人口減少社会が現実化し、地域間などの格差の問題も顕在化しはじめた。また、海外では新興国の経済成長と共に、環境・エネルギー問題、そして昨今のコロナ禍における物価高の消費問題など、重要な課題が多数存在する。社会課題の解決と共に、新たな時代の経済成長の枠組みとしてマーケティングへの期待もさらに高くなり、同時に対応を迫られている。そのような環境の変化に対応するマーケティングの課題を、具体的にどのように解決すれば良いかの手がかりに至るまでの説明をしながら理解を深めていく。</p> <p>さらに、環境の変化に対応するマーケティングのあり方として、マーケティング3.0など、次の時代のマーケティング枠組みも一歩踏み込んで学修していく。</p>						
到達目標	<p>①マーケティングの仕組みについて興味・関心を高めることができる。(知識・理解)</p> <p>②生活システムにおけるマーケティングの役割に気が付くことができる。(知識・理解)</p> <p>③商品開発の裏側を読み解き、自らの企画・開発力を実践することができる。(汎用的技能)</p> <p>④具体的な事例をもとに商品の違いを自ら説明できるようになる。(態度・志向性)</p> <p>⑤商品開発の難しさ・面白さを理解することができる。(態度・志向性)</p>						
授業計画	<p>第1回 マーケティング発想法ーニューコークとタイドー</p> <p>第2回 マーケティング・ミックスによる顧客創造ーネスレ日本 キットカットー</p> <p>第3回 製品による顧客創造ーカモ井加工紙株式会社ー</p> <p>第4回 価格による顧客創造ーサントリー</p> <p>第5回 チャネルによる顧客創造ー(ゲストスピーカー招聘予定)</p> <p>第6回 コミュニケーションにおける顧客創造ーファーストリテイリングー【PC必携】</p> <p>第7回 顧客理解ーライオン株式会社ー【PC必携】</p> <p>第8回 関係構築ーガンホー・オンライン・エンターテイメントー【PC必携】</p> <p>第9回 デジタル・マーケティングーハウス食品ー【PC必携】</p> <p>第10回 デiamondチェーンーカルビーー【PC必携】</p> <p>第11回 ブランド構築ーマンダムー【PC必携】</p> <p>第12回 営業活動ーカゴメー【PC必携】</p> <p>第13回 マーケティングの戦略展開ー花王ー【PC必携】</p> <p>第14回 社会共生と環境ートヨター【PC必携】</p> <p>第15回 マーケティング3.0ーP&amp;Gーからマーケティング5.0へ(まとめ)</p>						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	<p>【授業前】流行のものや話題のものを常に把握し、資料を収集しながらまとめる。(街の変化などにも敏感にキャッチしてください)(学習時間:2時間)</p> <p>【授業後】授業の復習と共に新聞・雑誌は必ずよんでおくこと。授業中に指示された課題についてレポートを作成(学習時間:2時間)</p>						
授業方法	<p>【講義形式】(BYOD対象科目)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・課題解決型学修</li> <li>・反転授業</li> <li>・時折、ディスカッション、ディベートを取り入れた授業を実践する。</li> </ul> <p>【実務経験のある教員等による授業】</p> <p>マーケティング&amp;リサーチ事業の代表として食品マーケティングを中心とする商品開発を行った経験を生かし具体的な事例を提供しつつ授業を進め製品開発についての知識を教える。</p>						
評価基準と評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中間テスト(20%)</li> <li>・授業内での提出物(レポートも含む)(20%)</li> <li>・期末試験(60%)によって総合的に判断する。</li> </ul>						
履修上の注意	<p>①消費者に指示される商品の特徴とは何か?常に考えておいてください。</p> <p>②授業中の携帯電話やメールの使用、居眠り、私語、途中退出・遅刻等に対しては厳しく対処する。 ※20分以上の遅刻は欠席とみなす。 ※講義全体の2/3の出席が確認できない場合は受講資格を失う。</p> <p>③新聞は必読</p> <p>④食ビジネス専修の学生は、以下の科目も関連して履修することが望ましい。 「地域ブランド」(2年生〜)「食と観光のマーケティング論」(3年生以降)「食と観光産業のマーケティング論」(3年生以降)</p>						
教科書	石井淳蔵・廣田章光・坂田隆文編著『1からのマーケティング・デザイン』碩学舎 2016年 ISBN978-4-502-20021-2						

参考書	随時紹介する。
-----	---------

科目区分	現代の教養系列／教養系列						
科目名	臨床心理学概論A						
担当教員	中村 博文					科目ナンバ-	P1201A
学期	前期／1st semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	臨床心理学とは何か						
授業の概要	本講義では、様々な臨床心理学の基礎理論を学ぶとともに、具体的な心理学的問題をどのように理解し、その改善にどのように働きかけていくかについて学習する。また、臨床心理行為を行うために必要な教育・訓練、および倫理的問題についても学習する。						
到達目標	(1) 臨床心理学の成り立ちについて説明できる。【知識・理解】 (2) 臨床心理学の代表的な理論について説明できる。【知識・理解】 (3) 臨床心理学という学問の特徴や基本的な概念について説明できる。【知識・理解】 (4) 臨床心理学と自らの生活との関連を見出し、その関連について論述できる。【態度・志向性】						
授業計画	#01：オリエンテーション－臨床心理学とは何か #02：臨床心理学の基礎理論①：精神分析 #03：臨床心理学の基礎理論②：行動療法 #04：臨床心理学の基礎理論③：認知（行動）療法 #05：臨床心理学の基礎理論④：人間性心理学 #06：臨床心理学の対象①：神経症・精神病 #07：臨床心理学の対象②：人格障害 #08：臨床心理学の対象③：発達障害 #09：ライフサイクルと臨床心理学①：乳幼児期・児童期 #10：ライフサイクルと臨床心理学②：思春期・青年期 #11：ライフサイクルと臨床心理学③：成人期・老年期 #12：臨床心理学的アセスメント #13：臨床心理行為と倫理 #14：まとめ、試験 #15：試験解題						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習（2時間以上）：シラバスの授業計画にある用語について、書籍やインターネットを使って事前に調べておくこと（例：#01は「臨床心理学」、#02は「精神分析」、など）。 授業後学習（2時間以上）：授業で取り上げた内容について、確認整理をしておくこと。また、授業で紹介した参考文献を読んで、授業の内容についての理解を深めること。						
授業方法	講義形式。 毎回の授業において、小レポート（その回の授業で学んだ内容に関する問いについて考えた回答、および質問、感想）を提出することを求める。 なお、提出された小レポートに対しては、次回の授業の冒頭で担当者がコメントを行う。						
評価基準と評価方法	小レポート（14%）：毎回授業で求める小レポート。【到達目標(1)～(4)のいずれかについての到達度確認。どの目標の確認かについては、授業回によって異なる】 期末試験（86%）：客観式ならびに論述式の試験を行う。#15に解答例を配付する。【到達目標(1)～(4)の到達度確認】						
履修上の注意	毎回の授業で、資料を提示する。 私語など、他の受講生の迷惑となる行為については、厳しく注意する。態度が改まらない場合には退席を求めたり、以降の受講を不可とする場合もある。						
教科書	なし。						
参考書	授業内で、適時紹介する。						

科目区分	現代の教養系列／教養系列						
科目名	臨床心理学概論B						
担当教員	坂本 真佐哉					科目ナンバ-	P1201B
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	月曜1	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	臨床心理学の基礎を学ぶ。						
授業の概要	臨床心理学が対象とするさまざまな心理学的問題について広く学習し、それらの見立てに必要な基本的知識の習得を目指す。特に、ライフサイクルの視点から発達課題と関連して生じやすい問題・病理の特徴をおさえ、さらに具体的な事例を取り上げて、その理解と対応について学習する。						
到達目標	(1) 各発達段階の心理学的特徴について説明することができる。【知識・理解】 (2) 各発達段階に生じやすい心理学的問題について具体的に説明することができる。【知識・理解】【態度・志向性】						
授業計画	第1回：オリエンテーション —臨床心理学の対象 第2回：乳幼児期・児童期の心理学的特徴と支援のポイント 第3回：乳幼児期・児童期に生じやすい心理学的問題①：虐待 第4回：乳幼児期・児童期に生じやすい心理学的問題②：不登校・いじめ 第5回：思春期・青年期の心理学的特徴と支援のポイント 第6回：思春期・青年期に生じやすい心理学的問題①：摂食障害 第7回：思春期・青年期に生じやすい心理学的問題②：対人恐怖 第8回：思春期・青年期に生じやすい心理学的問題③：ひきこもり 第9回：成人期・老年期の心理学的特徴と支援のポイント 第10回：成人期・老年期に生じやすい心理学的問題①：自殺 第11回：成人期・老年期に生じやすい心理学的問題②：認知症 第12回：授業のまとめと試験 第13回：グループ発表とディスカッション① 第14回：グループ発表とディスカッション② 第15回：試験解題および総括						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：授業で取り上げるテーマについて事前に調べる。また、授業で扱っていないテーマで、かつ各自が関心を持つ心理学的問題について調べ、発表資料を作成する。＜2時間＞ 授業後学習：授業で取り上げた内容について要点を確認・整理する。＜2時間＞						
授業方法	主に講義形式で授業を行うが、小グループによる発表とディスカッションを行う授業回もある。						
評価基準と評価方法	<b>評価基準と評価方法</b> 試験 60%：授業で扱った内容に対する理解度について評価する。到達目標(1)および(2)に関する到達度の確認。 発表 20%：発表内容により評価する。到達目標(2)に関する到達度の確認。 平常点 20%：各回提出のリアクションペーパー（講義内容についてのコメント・質問）などにより評価する。到達目標(1)および(2)に関する到達度の確認。  <b>課題に対するフィードバックの方法</b> リアクションペーパーのコメント・質問等については、翌週の授業で紹介・解説する。期末試験の講評は最終回の授業で行う。グループ発表の講評は授業の最後に行う。						
履修上の注意	1. 講義だけでなく、小グループによる発表も行うので、授業への積極的な参加が求められる。 2. 2/3以上の出席に満たない者は、定期試験の受験資格を失うものとする。 3. グループ発表に関する注意事項は授業内で指示する。						
教科書	プリントを使用する。						
参考書	授業中に紹介する。						

科目区分	現代の教養系列／教養系列						
科目名	歴史と人間						
担当教員	加藤 明恵					科目ナンバー	Z51220
学期	前期／1st semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	古文書・古記録から考える地域史						
授業の概要	本授業の目的は、古文書・古記録を主とした歴史資料を読み解くことをつうじて、古代から近現代の地域史を検討することである。取り上げる地域は現在の兵庫県域を中心として、歴史資料から得られる情報をもとに歴史像を組み立て、どのようにして地域の歴史を描くことができるのか、考えていきたい。						
到達目標	(1) 歴史を研究する方法の基礎的知識を得たうえで、授業で取り上げる多様な歴史的出来事について前後関係や当時の時代状況について説明することができる【知識・理解】 (2) 歴史に親しみ、現代社会とのつながりや共通性について主体的に考えることができる【態度・志向性】						
授業計画	第1回 ガイダンス：授業のねらいと進め方 第2回 古代 (1) 播磨国風土記 第3回 古代 (2) 行基と昆陽池 第4回 古代 (3) 荘園の展開 第5回 中世 (1) 大輪田泊の荒廃と修築 第6回 中世 (2) 播磨守護赤松氏 第7回 中世 (3) 戦乱と地域社会 第8回 近世 (1) 近世初期の大名の配置 第9回 近世 (2) 村のなりたち 第10回 近世 (3) 江戸積酒造業の発展 第11回 近世 (4) 慶応2年の打ちこわし 第12回 近代 (1) 兵庫県の誕生 第13回 近代 (2) 新聞資料を読む 第14回 近代 (3) 地方改良運動 第15回 授業のまとめ 第16回 期末試験						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前：授業で指示した史料に目を通し、不明な語句などを辞書等を使用して調べる。（2時間） 授業後：授業で紹介した参考文献を読み復習を行う。（2時間）						
授業方法	講義 各時代の概要についてレジュメ等を配付して教員から説明した後、事前に指定した歴史資料の内容についてグループディスカッションを行う。 グループディスカッションで得られた知見のメモ用紙を授業終了時に提出してもらう。						
評価基準と評価方法	(a) 評価基準と評価方法 授業内提出物、50%：ディスカッションの内容に関するメモ。到達目標 (1) および (2) の確認 期末試験、50%：授業で扱った歴史資料および各時代の歴史に対する理解度を評価する。到達目標 (1) および (2) の確認 (b) フィードバックの方法 授業内提出物に対するフィードバックは授業中に行う。						
履修上の注意	高校日本史Bもしくは日本史探究を履修した程度の知識があることが望ましい。						
教科書	なし。						
参考書	授業中に紹介する。						